

但別ニ名簿ヲ製シ宿泊人發着等書式ニ準シ記入
シ該名簿ハ一ケ年間保存スヘシ

第四章 下宿屋

第三十六條 下宿屋トハ一ケ月賄料若クハ座敷料等
約定シテ他人ヲ寄寓セシムルモノヲ云フ

第三十七條 下宿屋ハ五坪以上客室アル家屋ニ於テ
營業スルモノニ限ルヘシ

第三十八條 本則第三十條ノ各項ハ下宿屋ニモ亦之
ヲ適用ス

第三十九條 下宿屋ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ
其下宿人ト連署シ下宿人ノ族籍住所職業氏名年齢
及ヒ下宿ノ事由ヲ記シタル届書正副二通ヲ所轄警
察署分署又ハ巡查派出所ニ差出シ其一通へ受理シ
タル官吏ノ捺印ヲ受ケ之ヲ保存スヘシ

但警察署分署又ハ巡查派出所ナキ地方ハ最寄巡
査居住所へ差出スコトヲ得

第四十條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭

又ハ門戸へ揭示スヘシ

第四十一條 下宿人他へ轉宿シ又ハ五日以上外泊シ
テ其行先不明ナルトキハ所轄警察署分署又ハ巡
査派出所へ届出ツヘシ

但警察署分署又ハ巡查派出所ナキ地方ハ最寄巡
査居住所へ届出ツ可シ

第五章 木賃宿

第四十二條 宿泊人發着届出方等ハ第三十五條ノ例
ニ從フヘシ

第四十三條 宿泊人滞在中外泊シタルトキハ詳細其
事由ヲ名簿ニ記載シ置ク可シ

第六章 罰則

第四十四條 本則第三條第五條第六條第七條第八條
第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五
條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第
三十一條第三十三條第三十四條第三十五條第三
十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條ニ

違背シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ
 又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 附則
 一本則ニ該當スル從來ノ宿屋及ヒ下宿屋ニシテ引續
 キ營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以
 内ニ第三條ニ據リ出願免許ヲ請フヘシ
 一本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ組合及ヒ規約ヲ設
 ケ且取締人ヲ撰擧シ認可ヲ受クヘシ
 一客室ノ構造第三十條ニ觸ル、モノト雖モ本則施行
 ノ日ヨリ六ヶ月以内ハ營業スルコトヲ得
 一客室ノ坪數第二十九條及第三十七條ニ觸ル、者ト
 雖モ本則施行ノ日ヨリ一ヶ年以内ハ營業スルコト
 ヲ得
 一一定ノ場所外ニアル木賃宿ト雖モ本則施行ノ日ヨ
 リ一ヶ年以内ハ營業スルコトヲ得

此名簿ハ其年一月一日ヨリ十二月三十一日
 マテノ分ヲ壹冊又ハ數冊トナシ毎年之ヲ改
 正シ前年分ハ滿壹ヶ年間之ヲ保存スルモノ
 トス用紙寸法適宜
 明治何年一月ヨリ

宿泊人發着名簿

滋賀縣近江國何郡何町村何番地
 何屋
 其屋號ヲ掲ク、何
 某

宿泊人番號	第何號
投宿月日時	明治何年何月何日午前(後)第何時
前夜宿泊所	何府縣何國何郡區何町村何番地何誰方(又ハ何々)
出立月日時	明治何年何月何日午前(後)第何時
行先地名	何府縣何國何郡區何町村何番地何誰方(又ハ何々)
相貌ノ別徵	額上ニ何寸許ノ刀傷痕アリ(又ハ何々)

住 所	何府縣何國何郡區何町村何番地
身 分	華士族平民(又ハ神官僧侶等ノ別)
職 業	何々
氏名年齢	何某 何十何年何ヶ月

堅曲尺三尺横同七寸厚サ并ニ木質適宜

明治何年何月何日免許

□ 旅 人 宿 下宿屋 木賃宿 屋 號 氏 名

用紙寸法適宜

明治何年 何月何日	宿泊人届 何屋 <small>屋號アルモノハ屋號ヲ掲ケ</small> 何 某(印)
宿泊人番號	第何號
投宿月日時	何月何日午前(後)第何時
住 所	何府縣何國何郡區何町村何番地又ハ(何々方同居)
身 分	華士族平民又ハ神官僧侶又ハ何々
職 業	何職又ハ何々(官吏ナレハ奉職廳及ヒ官名ヲ記ス)
氏名年齢	何某何年何ヶ月
前夜宿泊所 氏名	何府縣何國何郡區何町村何番地何某方
宿泊ノ事由	何々ノ爲メ
行先地名氏名	何府縣何國何郡區何町村何番地何某方(又ハ歸宅)
相貌別徴ノ有無	額上ニ刀傷痕又ハ何々部ニ黒子アリ(又ハ何々)

(全上)

明治何年	宿泊人出立届	何郡何町村何番地族籍
何月何日	何屋 其屋號ヲ掲グ	何某 [㊦]
宿泊人番號	前日投宿シタルモノ、番號ヲ掲ク	
氏名	前日宿泊シタルモノ、氏名	
出立月日時	何月何日午前(後)第何時	
行先地名	何府縣何國何郡區何町村何番地何某方(又ハ歸宅)	
同上	同上	
同上	同上	
同上	同上	
同上	同上	

(参考)
 ○告示第五十三號 明治二十年三月三十日

縣令第九號宿屋取締規則第一章第四條ノ木賃宿營業場所左ニ示ス

滋賀郡上片原町、下片原町、大谷町、追分町、藤尾村ノ内
 字横木、衣川村、北小松村
 栗太郡草津村ノ内字横町南裏
 野洲郡吉身村ノ内字ハイアカリ
 甲賀郡水口村ノ内字片町、松原町、林口村ノ内字門ノ
 外、石部村ノ内字繩手町、東清水町、土山村ノ内字瀧町
 中ノ街道
 蒲生郡繩手町、長光寺ノ内字横町、武佐村ノ内字鳥居
 前、石原村
 神崎郡八日市村ノ内字堂ノ森
 愛知郡愛知川村ノ内字繩手
 犬上郡外船町東ハ上藏下町西ハ高宮村ノ内字向川原
 小道具町ヲ限トス
 坂田郡西三ツ矢町、郡上町、春照村、柏原村、醒井村、番場
 村ノ内字番場鳥居本村、米原村
 東淺井郡速水村ノ内字北町、郡上村ノ内字町間第四

百五十五番地ヨリ以北兩側
伊香郡木ノ本村ノ内字十善寺、柳ヶ瀬村ノ内字北大門

西淺井郡蘆津濱村ノ内字東ノ内千五十番地以東
高島郡海津町ノ内字中村町、保坂村、今津村ノ内字北濱
安井川村ノ内字河原市勝野村ノ内字打嵐、市場村ノ内字下市、古屋村

運送營業取締規則

○縣令第百十號 明治二十年三月三十日

運送營業取締規則別冊ノ通相定來五月一日ヨリ施行ス、

(別冊)

運送營業取締規則

第一章 總則

第一條 運送營業トハ水陸運送請負及廻漕人馬繼立并ニ小飛脚ヲナスモノヲ云フ

第二條 前條ノ營業ヲナサントスルモノハ組合取締

人ノ連署ヲ要シタル書面ヲ以テ縣廳へ願出許可ヲ受クヘシ

但支店若クハ取扱所ヲ設ケ又ハ廢業代換改名轉居等ノ節ハ本條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第三條 營業人ハ左ノ割合ニ依リ身元金ヲ組合取締所へ差出スヘシ

但支店ノ身元金モ本條ニ準ス
一ヶ年營業取扱金高貳千圓以上身元金百圓

同 千圓以上同 七拾圓

同 五百圓以上同 五拾圓

同 三百圓以上同 三拾圓

同 貳百圓以上同 貳拾圓

同 貳百圓未滿同 拾圓

第四條 身元金ハ開業出願ノ際差出其金額ヲ願書ニ記載スヘシ

第五條 身元金ハ廢業シ又ハ免許ノ効ヲ失ヒタルトキハ之ヲ還付ス

第六條 身元金ハ營業上ニ關シ他人ニ損害ヲ與ヘタ
ルトキハ其辨償ニ充用セシムヘシ
第七條 身元金ニ欠額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ
之ヲ完納スヘシ其欠額ヲ納メタルトキハ營業免許
ノ効ヲ失フヘシ

第八條 營業人開業免許ヲ受ケタルトキハ組合取締
所ヘ申出營業鑑札ヲ受クヘシ
但營業鑑札ハ賣買貸借スヘカラス

第九條 營業鑑札ハ毎年二月組合取締所ノ檢印ヲ受
クヘシ其檢印ナキモノハ無効トス

第十條 營業鑑札ヲ毀失シ又ハ代換改名轉居等ノ節
ハ書換又ハ再渡ヲ乞フヘシ
但廢業又ハ組合ヨリ除名セラレタル時ハ返還ス
ヘシ

第十一條 營業人ハ組合取締所ノ檢印ヲ押捺シタル
業名標ヲ店頭ニ揭示スヘシ

第十二條 營業人ハ組合ニ係ル費用ヲ負擔スヘシ

第十三條 營業人ハ組合規約ニ定ル賃錢手数料等ノ
外要求スヘカラス且其定額ハ衆人ノ見易キ場所ニ
揭示スヘシ

第十四條 營業人ハ米質改良組合取締規則及組合規
約ニ違背セル米穀運送ノ委託ヲ受クヘカラス(二十一年九月
聯合第百三十七
號ヲ以テ追加)

第十五條 營業人ハ運送物ニ不審ト見認ムルモノア
ル時ハ警察官吏ニ密告スヘシ

第二章 營業組合

第十六條 營業人ハ一ノ組合ヲ設クヘシ其組合ニ入
ラサルモノハ運送營業ヲナスコトヲ得ス

第十七條 營業人ハ滋賀郡大津便宜ノ地ニ組合取締
所ヲ設ケ又取締上必要ノ地ニ出張所ヲ設クヘシ

第十八條 取締所ニ正副取締人各壹名出張所ニ副取
締人壹名宛ヲ撰置シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但便宜地區ヲ定メ總代人ヲ置クコトヲ得
第十九條 組合ニ於テハ左ノ各項ニ從ヒ規約ヲ定メ

縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 取締所及出張所ノ位置
 - 一 取締人選舉法及任期
 - 一 取締人事務條項及權限
 - 一 組合ニ係ル費用ノ豫算及徵收方法
 - 一 組合會議ニ關スル規程
 - 一 諸貸錢手數料等ノ定額
 - 一 身元金保管法
 - 一 物貨取扱法
 - 一 傭人及稼業人ニ關スル規程
 - 一 損害辨償ノ方法
 - 一 違約者處分法
 - 一 前各項ノ外營業上必要ノ件
- 第二十條 取締人ハ丁年以上ノ男子ニシテ縣下ニ本籍ヲ有シ且ツ名望ト相當ノ財産ヲ有スルモノタルヘシ
- 第二十一條 取締人被撰者中適任ノ者之レナキカ又

ハ撰任後不適任ト見認ルトキハ改撰ヲ命ス

第二十二條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項概テ左ノ如シ

- 一 組合營業人ノ願屆書等ニ連署スル事
 - 一 組合營業人名簿ヲ製シ増減異動アル毎ニ訂正加除スル事
 - 一 組合營業人ニ費用ノ決算報告ヲナス事
 - 一 運送營業上ニ關シ意見ヲ縣廳ヘ具申スル事
 - 一 違約者ヲ處分スル事
 - 一 前各項ノ外取締上ニ關スル一切ノ事務及組合規約ニ於テ定メタル事項ヲ取扱フ事
- 第三章 運送請負營業
- 第二十三條 運送物ノ荷造粗造ニシテ運送中濡沾漏脱等ノ難ヲ防ク能ハサルト思慮スル時ハ荷主ヲシテ改造セシムヘシ
- 第二十四條 送狀ヲ添付セカル運送物ハ取扱フヘカラス又送狀ニハ左ノ各項ヲ詳記セシムヘシ

一 荷主及届先ノ住所姓名並ニ差出年月日
一 物品ノ種類價格及個數斤量
一 賃錢ノ拂方(前拂先拂等)及運送方馬車便瀛船積和船積等)ノ區別

前各項ノ外運送上必要ノ件

第二十五條 運送物ヲ受取タルトキハ前條ニ倣ヒ詳細シタル受取証ヲ渡スヘシ

第二十六條 運送物他ヨリ到着セシ時ハ損害ノ有無等ヲ點檢シ若シ異狀アリト思慮スルモ外面ヨリ認メ難キトキハ組合役員ノ檢査ヲ經其事由ヲ記シタル書面ニ証印ヲ受ケ送狀ニ添付發送スヘシ

第二十七條 到着セシ運送物ニ損害アル時ハ組合役員ノ檢査ヲ受ケ其狀況ヲ詳細シタル書面ニ証印ヲ受ケ添付發送スヘシ

第二十八條 組合役員ニ於テ前條檢査ヲナシタルトキハ其繼越タル地ノ組合役員ニ急報スヘシ其急報ヲ受ケタル組合役員ニ於テハ速ニ其事由ヲ取調差

立元營業人荷主ニ發送スヘシ

第二十九條 營業人ハ各一様ナル繼立帳ヲ製シ運送物ノ種類員數價格賃錢發着時刻及損害ノ有無等ヲ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第三十條 荷物ノ運送ハ送狀ニ記シタル區別ニ從ヒ取扱フヘシ

但別段荷主ノ承諾ヲ經テ變更スルハ此限ニアラス
第三十一條 前各條ノ外別段成規アルモノハ其成規ニ從フヘシ

第四章 廻漕營業

第三十二條 荷物ノ積卸及廻漕中濡沾破損等之レナキ様丁寧ニ取扱フヘシ

第三十三條 廻漕中荷主ノ承諾ヲ經スシテ他ノ營業人ト荷替ヲナスヘカラス

第三十四條 營業人ハ陸路運送ノ依托ヲ受クヘカラス

第三十五條 廻漕中他船ト速力ヲ競争シ其他危險ノ所業ヲナスヘカラサルハ勿論暴風等ノ節ハ廻漕ヲ

ナスヘカラス

第三十六條 荷物ノ運送ハ送狀ニ記シタル區別ニ從ヒ取扱フヘシ

但別段荷主ノ承諾ヲ經タルモノハ此限ニアラス
第三十七條 營業人ハ各一様ナル帳簿ヲ製シ運送物ノ種類員數價格賃錢及受授ノ時日等ヲ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第三十八條 本章ニ掲クル外第三章第二十二條第二十三條第二十四條第三十條ヲ遵守スヘシ

第五章 人馬繼立營業

第三十九條 營業人ハ各一様ナル繼立帳ヲ製シ繼立ノ都度賃錢及繼立地名並ニ稼業人ノ姓名等ヲ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第四十條 謂レナク繼立ヲ拒ミ又ハ故ナク遅緩スヘカラス

第四十一條 繼立ニ使用スル人足ヘハ營業人ヨリ其雇人タルノ証票ヲ渡シ之ヲ携帯セシムヘシ

第四十二條 繼立ノ順序ハ急行ヲ除クノ外申込ノ前後ニ從フヘシ

第四十三條 人足途中ニ於テ荷物ニ損害ヲ與フル等ノ事アル時ハ營業人其責ニ任スヘシ

第六章 小飛脚營業

第四十四條 營業人ハ平素運送スル地名ヲ組合取締所ヘ届出且重ナル地名ヲ業名標ニ記入スヘシ

第四十五條 營業人ハ各地繼立ヲ要スル荷物ノ運送ヲ請負スヘカラス

第四十六條 荷物ノ受渡ハ必ス帳簿ニ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第四十七條 平素發送時日ヲ定メオクモノハ必ス其日時ニ發送スヘシ

第四十八條 發送ノ途中他ノ營業人ト荷替チナスヘカラス

第四十九條 營業上ニ使用スル雇人ノ姓名年齢等ハ組合取締所ヘ届置シヘシ

第七章 罰則

第五十條 此規則第二條第三條第八條第十條第十一條第十三條第十四條第二十九條第三十條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十九條第四十條第四十一條第四十四條第四十五條第四十六條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(二十年縣令第百三十七號ヲ以テ改正)

附則

一從來ノ營業者ニシテ引續營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ願出許可ヲ受クヘシ

一本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ組合及規約ヲ設ケ且取締人ヲ撰擧シ認可ヲ受クヘシ

堅直尺三寸横同七寸厚並ニ木質適宜

堅直尺四寸横同三寸紙質適宜

何々營業 住所 氏名

表 年月日 何々營業鑑札

滋賀縣運送營業取締所

取締所捺印

取締所印

滋賀縣近江國何郡何町村 何番地 何 某

明治何年 何月何日

取締所捺印

牛馬宿又ハ飼養營業願出方

○甲第八十六號 明治十九年六月二日

市街ニ於テ營業ノ爲メ牛馬ヲ飼養シ又ハ牛馬宿ヲ營業セントスルモノハ戸長ノ與印ヲ受タル書面ニ其位置并ニ構造等ノ圖面及四隣接續地主ノ承諾証ヲ添ヘ

牛馬宿又ハ飼養營業願出方

百一

所轄警察署へ願出許可ヲ受クヘシ
但現ニ本文ノ營業ヲ爲スモノハ來ル三十日迄ニ願
出許可ヲ受クヘシ

新聞紙雜誌雜報受賣取締

○縣令第四十六號 明治二十一年二月二十四日

新聞紙雜誌雜報ノ發賣又ハ受賣營業ヲ爲サントスル
者ハ族籍住所氏名及ヒ其新聞紙ノ種類ヲ記載シ開業
三日以前ニ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ若シ其種
類ノ増減スルカ又ハ轉居廢業等爲シタルトキハ全樣
届出ヘシ
從前營業者ニシテ猶繼續營業セントスル者ハ十日以
内ニ前全樣届出ヘシ
右違犯ノ者ハ刑法第四百二十七條ノ刑ニ處ス

屠場取締規則

○縣令第七十一號 明治二十年八月十六日

屠場取締規則左ノ通相定メ來ル十一月一日ヨリ施行
ス

屠場取締規則

第一條 屠場ハ自用ト販賣トナ問ハス牛馬羊豚ヲ屠
殺スル所トス其場外ニ於テハ一切之ヲ屠殺スルコ
トヲ許サス

但屠場ノ免許ヲ受ケタル者ト雖モ其肉ヲ販賣セ
ント欲スルトキハ獸肉販賣取締規則ニ據ルヘキ
ハ勿論トス

第二條 屠場ヲ新設セント欲スル者ハ別紙書式ニ照

準シタル願書ニ借地ナラハ其地主連署シ(接續地主
ノ承諾書及其位置並ニ構造ノ各圖面工事仕様書ヲ
添へ所管警察署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ
其地所建物ヲ増減變換セントスルトキモ亦同シ
但單ニ建物ノ變換ニ係ルモノハ地主ノ連署及承

諾書並ニ位置ノ圖面ヲ要セス

第三條 屠場ヲ讓渡サント欲スルトキハ讓受人(借地

ナラハ其地主トモ)連署ノ書面ヲ以テ所管警察署ヲ
經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ

第四條 改氏名轉居代替廢業等ノ節ハ其都度所管警察署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第五條 屠場ノ位置構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ

一屠場ノ位置ハ最近ノ人家ヲ距ルコト直徑六十間以上ニシテ道路ニ沿ハス河川ニ接セス且飲料水ニ障害ナキ地ニ限ルヘシ

二屠場ハ三百坪以上ノ地ニシテ水ノ供給充分ナルヲ要ス

三屠場ノ周圍ニハ高サ六尺以上ノ土手又ハ墻扉木柵等ヲ設クヘシ

四屠場内ニハ屠室屠畜繫留所檢査官詰所及相當ノ構造ヲ要シタル兩便所等ヲ設クヘシ

五屠室ハ地盤ニ石ヲ敷設シ「セメント」ニテ其繼目ヲ密接シ石又ハ漆喰敲ヲ以テ汚物溜ニ通スル溝ヲ設クヘシ其内部ノ周圍ハ石造煉瓦造ニ係ルモノ、外厚板ヲ張り亞鉛板ヲ以テ之レヲ蔽ヒ屋上ニハ空氣ノ放散スヘキ裝置ヲナシ周圍ノ上下ニ數箇ノ窓ヲ設ケ以テ光線ノ射入空氣ノ通暢ヲ能クスヘシ

六屠畜繫留所ノ地盤ハ前項ニ準シテ構造シ其糞尿等ハ糞尿溜ニ通セシムヘシ

但地盤ハ厚サ二寸以上ノ漆喰敲トナスモ妨ナシ

七汚物溜糞尿溜ハ磁器ノ類ヲ用ヰ若クハ周圍底面トモ厚サ二寸以上ノ漆喰敲其他不滲透質ノモノヲ以テ之ヲ構造シ底面ハ中心ニ向テ勾配ヲ付シ且相當ノ屋壁若クハ覆蓋ヲ設クヘシ

八屠室外ニ屠畜ノ臟腑等ヲ取扱フヘキ場所ヲ設ケ其地盤ハ厚サ二寸以上ノ漆喰敲トナシ且屋根ヲ設クヘシ

第六條 前條構造落成ノ上ハ所管警察署ヲ經テ縣廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ檢査ノ上許可ヲ與フルニ非サレハ使用スルヲ得ス

第七條 屠場ノ入口ニハ左ノ雛形ノ看板ヲ掲クヘシ

何郡何町何番字何

□屠場

明治何年何月何日免許 何郡何町何番屋敷

名

用材適宜
竪四尺
横一尺

第八條 屠場ハ日々掃除シ屠室及溝筋ハ屠殺終リタル毎ニ洗淨ス可シ

第九條 臟腑皮骨ノ類及血液汚水汚物ノ類ハ其都度之ヲ取除クヘシ

第十條 免許ヲ得タル屠場ト雖モ實際障害アルヲ發見シタルトキ又ハ改作修繕ノ命ニ從ハサルトキハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 屠場主ハ屠殺ノ前日其種類頭數牝牡及買入先キ等ヲ記シ所管警察署又ハ分署ヘ届出検査ヲ受クヘシ

第十二條 屠殺シタル獸肉ニハ検査官ニ就テ検査濟ノ印記ヲ受クヘシ
第十三條 屠殺シタル肉ヲ屠場外ニ運搬スルトキハ

清潔ナル麻布等ニテ包ミ之ヲ暴露セシムルコトヲ禁ズ
第十四條 検査官ニ於テ病獸又ハ食用ニ害アリト認めタル肉ハ其屠殺若クハ販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

但販賣禁止ニ係ルモノハ處置ハ検査官ノ指圖ニ從フヘシ

第十五條 屠場營業人ハ屠畜ノ種類ニ依リ其屠殺料ノ額ヲ定メ豫メ所管警察署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ其増減ヲ要スルトキモ亦同シ

第十六條 屠場營業人ハ何人ノ需メト雖モ正當ノ事故ナクシテ屠殺ヲ拒ムコトヲ得ス

第十七條 屠場ニ於テハ牛馬羊豚ヲ除ク外他ノ獸類ヲ屠殺シ及斃獸ヲ剖割スルコトヲ禁ズ

第十八條 第二條第三條第四條第六條ノ願届等ニハ屠場所在地戸長ノ奥印ヲ受クヘシ

第十九條 此規則第一條第二條第三條第四條第六條第八條第九條第十一條第十二條第十三條第十五條

第十六條第十七條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス

(別紙) 願書式

屠場新設願

何郡何村何番屋敷
持主 氏 名

但最近ノ人家ヲ距ル直徑何十何間

右ノ地所ニ於テ屠場新設仕度候間御檢査ノ上御免許被成下度別紙接續地主ノ承諾書及位置并ニ構造ノ各圖面工事仕様書相添此段奉願候也

年號月日

何郡何村何番屋敷

願人 氏 名印

何郡何村何番屋敷

地主 氏 名印

滋賀縣知事氏名殿

斃牛馬割割營業取締規則

○縣令第百七十二號 明治二十年八月十六日

斃牛馬割割營業取締規則左ノ通相定メ來ル十一月一日ヨリ施行ス

斃牛馬割割營業取締規則

第一條 斃牛馬ヲ割割シテ營業トナサント欲スル者ハ別紙書式ニ照準シタル願書ニ(借地ナラハ其地主連署シ)接續地主ノ承諾書及割割場ノ位置並ニ構造ノ各圖面工事仕様書ヲ添へ所管警察署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其地所建物ヲ増減變換セントスルトキモ亦同シ

但單ニ建物ノ變換ニ係ルモノハ地主ノ連署及承諾書並ニ位置ノ圖面ヲ要セス

第二條 割割場ヲ讓渡サント欲スルトキハ讓受人借地ナラハ其地主トモ連署ノ書面ヲ以テ所管警察署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ

第三條 改氏名轉居代替廢業等ノ節ハ其都度所管警察署ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

第四條 割割場ノ位置構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ

斃牛馬割割營業取締規則

一 割割場ノ位置ハ最近ノ人家ヲ距ルヲ直徑六十間以上ニシテ道路ニ沿ハス河川ニ接セス且飲料水ニ障害ナキ地ニ限ルヘシ

二 敷地ノ周圍ニハ塙塙等ヲ設クヘシ

三 割割場ハ其地盤ヲ厚サ二寸以上ノ漆喰敲トシ且汚水溜ニ通スル溝ヲ設クヘシ其内部ノ周圍ハ厚板ヲ張リ之レニ(ペンキ)ヲ塗ルヘシ

四 汚水溜ハ割割場ニ使用シタル一切ノ汚水ヲ受クル所ニシテ磁器ノ類ヲ用ヰ若クハ周圍底面トモ厚サ二寸以上ノ漆喰敲其他不滲透質ノモノヲ以テ之ヲ構造シ且相當ノ覆蓋ヲ設クヘシ

五 汚物ヲ容ルヘキ相當ノ器具ヲ備フヘシ

六 相當ノ構造ヲナシタル検査官ノ臨監場及兩便所ヲ建設スヘシ

第五條 前條ノ構造落成ノ上ハ所管警察署ヲ經テ縣廳ニ届出検査ヲ受クヘシ検査ノ上許可ヲ與フルニ非レハ使用スルヲ得ス

第六條 割割場ノ入口ニハ左ノ離形ノ看板ヲ掲クヘシ

何郡何町何番字何
 何郡何町何番屋敷
 用材適宜
 豎四尺
 横一尺

□ 斃牛馬割割場
 明治何年何月何日免許

第七條 割割場ノ内外ハ掃除洗滌ヲ怠ラズ臭氣ノ放散セサル様嚴ニ注意スヘシ

第八條 免許ヲ得タル割割場ト雖モ實際障害アルヲ發見シタルハ又ハ改作修繕ノ命ニ從ハサルトキハ使用ヲ停止スルコトアル可シ

第九條 斃牛馬ヲ割割セント欲スルトキハ其飼主ノ住所氏名ヲ具シ所管警察署又ハ分署ニ届出検査ヲ受クヘシ

第十條 割割シタル斃牛馬ノ肉ハ検査官ノ面前ニ於テ直ニ之ヲ細截シテ綠礬水ニ浸漬スヘシ
 但綠礬水缺乏ノ場合ニ於テハ熱湯ニ浸漬スヘシ

第十一條 斃牛馬ノ肉ヲ食用ノ爲メ販賣スルコトヲ
 禁ス
 第十二條 免許ヲ得サル場所ニ於テ斃牛馬ヲ割割ス
 ルコトヲ禁ス
 第十三條 傳染病ニ罹リテ斃死シタル牛馬ヲ割割ス
 ルコトヲ許サス
 第十四條 第一條第二條第三條第五條ノ願届等ニハ
 割割場所在地戸長ノ與印ヲ受クヘシ
 第十五條 此規則第一條第二條第三條第五條第九條
 第十一條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ刑法
 第四百二十六條ノ刑ニ處ス

(別紙)

願書式

斃牛馬割割營業願

何郡何村何番屋敷
 何郡何村何番字何
 一何地反別何程
 但最近ノ人家ヲ距ル直徑何十何間
 何郡何村何番屋敷
 何郡何村何番屋敷
 持主 氏 名

右ノ地所ニ於テ割割場取設ケ斃牛馬割割營業仕度候
 間御檢査ノ上御免許被成下度別紙接續地主ノ承諾申
 及位置并ニ構造ノ各圖面工事仕様書相添此段奉願候
 也

年號月日
 何郡何村何番屋敷
 願人 氏 名印
 何郡何村何番屋敷
 地主 氏 名印

滋賀縣知事氏名殿

(參考)

○甲第百十七號 明治十三年九月十一日
 牧場其他ニ於テ飼養ノ牛馬(牛疾ニ罹リタルモノハ明治九年三月本縣
 甲第百三十六號布達疾牛處分假條例ニ據
 シル可)スル時ハ飼主ヨリ直ニ衛生委員ニ届出可成斃牛馬
 取扱營業ノ者ニ付スヘシ若シ飼主ニ於テ焼埋却又ハ
 割割セント欲スルモノハ衛生委員ノ指圖ヲ受ケ相當
 ノ場所ヲ撰ミ且割割ノ節ハ所管警察署又ハ分署ニ届
 出臨檢ヲ受ケ其肉ハ直ニ細截シ生石灰或ハ綠礬末ヲ

獸肉販賣取締規則

混和シ又ハ之ニ熱湯ヲ灌シヘシ尤飼主ニ非サル者ハ
露牛馬取扱場ノ外ニ於テ分割スルヲ許サス此旨布
達候事

但埋穴ノ深サハ壹丈貳尺ヨリ淺クスヘカラス

獸肉販賣取締規則

○縣令第七十三號 明治二十年八月十六日

獸肉販賣取締規則左ノ通相定メ來ル十一月一日ヨリ
施行ス

獸肉販賣取締規則

第一條 此規則ニ稱スル處ノ獸肉トハ食用ニ供スル
牛馬羊豚ノ諸肉ヲ云フ

第二條 獸肉ヲ販賣セント欲スルモノハ所管郡役所
ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但屠場營業人ト雖モ其肉ヲ販賣セント欲スルト
キハ此規則ニ據ルヘキハ勿論トス

第三條 獸肉販賣營業者ハ左ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘ
シ

「免許鑑札ノ番號ヲ記載スヘシ」

第何號

○牛(馬)(羊)(豚)肉販賣營業

何郡何町何番屋敷

氏名

用材會
豎三尺
横七寸

第四條 前條營業者行商セント欲スルトキハ所管郡
役所ニ願出行商鑑札ヲ受ケ行商ノ節ハ必ス携帶シテ
露店ヲ出ストキハ之ヲ店頭ニ表出スヘシ

但家族雇人等ヲシテ行商ヲ爲サシムル者ハ本文
ノ手續ニ據リ各自ニ鑑札ヲ受クヘシ

第五條 飲食店等ニ於テ生獸肉ヲ其儘販賣スル者ハ
第二條ニ據リ免許鑑札ヲ願受クヘシ

第六條 鑑札ヲ毀失シタルトキハ再渡ヲ請ヒ改氏名
轉居代替等ノトキハ鑑札書換ヲ請ヒ廢業等ノ節ハ
之ヲ返納スヘシ

第七條 腐敗ニ傾キタル肉斃死セル獸畜ノ肉屠場ノ
明カナラサル肉ヲ販賣スルコトヲ禁ス

第八條 他ノ肉ヲ僞稱シ又ハ混同シテ販賣スルコト
ヲ禁ス

第九條 此規則第二條第三條第四條第七條第八條ニ
違背シタルトキハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス
牛乳搾取并請賣營業規則

○甲第百十八號 明治十三年九月十三日
牛乳搾取并請賣營業規則別冊ノ通相定候條此旨布達
候事

但從前營業ノ者モ本則ニ遵ヒ更ニ願出ヘキ儀ト可
相心得事

(別冊)

牛乳搾取并請賣營業規則

第一條 乳牛ヲ蓄養シ乳汁ヲ搾取販賣セント欲スル
モノハ後ニ示シタル願書式ニ準據シ蒙場ノ圖面ヲ
付シ郡役所ヲ經テ本廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
但蒙場ヲ轉スル節ハ本條ノ手續ニヨリ更ニ願出
ツヘシ

(十五年第三十九號布達ヲ以テ改正)

第二條 牛乳ヲ請賣セント欲スル者ハ其搾取人進署
ノ書面ニ戶長衛生委員ノ與書調印ヲ受ケ郡役所ヘ
願出請賣鑑札ヲ受クヘシ

第三條 蒙場ハ日々掃除ヲ怠ラス惡臭ノ飛散ヲ防キ
且炎熱ノ候又ハ流行病アルニ際シテハ時々防臭液
等ヲ灌キ專ラ清潔ヲ要スヘシ

第四條 乳汁ヲ容ル、器具ハ金屬製ノモノヲ用フヘ
カラス(鐵製ノフリキハ此限ニ非ス)且取扱ノ疎漏ヨリ塵埃等ヲ混入セ
サル様注意スヘシ

第五條 左ニ記列シタル乳汁ハ販賣スルヲ許サス
水又ハ他物ヲ混和シタルモノ
病牛ヨリ搾取シタルモノ
腐敗ニ傾キタルハ勿論搾取後時ヲ經テ稍其質ヲ變
シタルモノ

第六條 蓄牛若シ病ニ罹ラハ速ニ獸醫又ハ醫師ヲ招
キ治療ヲ乞ヒ萬一傳染病ノ徵候アリト認ムルハ

直ニ衛生委員ニ届出ヘシ

第七條 當該官員衛生委員又ハ警察官吏等臨時出張
養場等ヲ檢査スルコトアルヘシ

(廿年二月縣令第八十一號ニテ改正)

第八條 無鑑札ニテ營業シ又ハ鑑札ヲ貸借シ又ハ許
可ヲ得スシテ養場ヲ設ケ又ハ第五條ニ掲クル乳汁
ヲ販賣シタルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處
ス

願書式

牛乳搾取營業願

何郡何村何番地
一何地反別何程

今般右之地所ニ於テ或ハ借受乳牛蓄養仕乳牛搾取營
業仕度候間實地御檢査之上御差支モ無之候ハ、御免
許鑑札御下渡被成下度別紙圖面相添此段奉願候也

年號月日 何郡何村何番地住(或ハ寄留)
願 人 氏 名印

何郡何村何番地住(或ハ寄留)
地所持主 氏 名印

滋賀縣令苗字名殿

前書之趣他ニ差支ノ筋無之候ニ付與印仕候也

何町村戸長(兼養場アル地ノ戸長)

氏 名印

同衛生委員(兼養場アル地ノ衛生委員)

氏 名印

牛乳搾取營業鑑札 住 所 但木製

氏 名

表 牛乳搾取營業

養場地名

年號月日

裏

番號

滋 賀 縣

氷雪製造貯藏並販賣規則

牛乳請賣鑑札

但同上

表 牛乳請賣營業

住所 氏名

裏面

同前
十五年甲第三十九
號布達ヲ以テ追加
但滋賀縣ヲ滋賀縣
何郡役所ニ作ル

氷雪製造貯藏並販賣規則

○甲第百八十二號 明治十四年十一月五日

明治十一年十二月本縣甲第七十六號布達製氷検査手續相廢シ氷雪製造貯藏并販賣規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

但本則第一條出願期限ノ儀ハ本年ニ限リ十二月十日迄延期候事

(別冊)

氷雪製造貯藏并販賣規則

第一條 飲用ノ爲メ天然ノ凍水ヲ製造セント欲スルモノハ毎年十月三十日限リ人工ヲ以テ製造セント欲スルモノハ隨時第一號書式ノ願書ニ製造場及近傍

ノ概況ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ該場所在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ尤モ製造場ノ外別ニ貯藏場ヲ設ケル者ハ其旨願書ニ記載スヘシ但シ本文ノ地所官有地ナレハ別ニ地所拜借ヲ願出ヘシ民有地ナレハ村總代若クハ地所持主等連署差支ナキ旨ヲ證シタル書面ヲ本文ノ願書ニ添ヘ差出スヘシ
第二條 前條願出ルルハ主務官吏ヲ派出シ實地ニ就キ検査シ不都合ナケレハ製造ヲ許可スヘシ
第三條 製造許可ノ後ト雖モ主務官吏臨時巡視シ若シ有害物ヲ混入スルカ或ハ不潔ノ製ト認ムルハ其製造ヲ差止メ又ハ現水ヲ投棄セシムルヲアルヘシ
第四條 許可ノ上製造セシ凍水ヲ發賣セント欲スルルハ其期ニ至リ第二號書式ノ願書ヲ製造場所在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ差出シ更ニ氷質ノ検査ヲ受クヘシ但人工ヲ以テ製造スル者ハ最初一回本文ニ準シ検査ヲ受ケルニ於テハ次回以後ハ其都度願出ルニ及ハスト雖モ時々主務官吏ヲ派出シテ試験ヲナス

第五條 前條冰質ノ検査ヲ願出ルキハ主務官吏ヲ派出シ質地ニ就キ或ハ現品ヲ持參セシメ試験ヲ遂ケ其質善良ニシテ無害ナル者ハ之ヲ飲料ニ供シ障害ナキ旨ヲ明記シタル試験成績告示書ヲ下付スヘシ但試験ノ上品質不真ナルモノハ其旨ヲ明記シタル試験成績告示書ヲ下付シ飲料ノ爲メニ發賣ヲ許ササルハ勿論時宜ニヨリ適應ノ場所ヘ投棄セシムルコトアヘシ

第六條 天然ノ積雪又ハ他管ニ於テ製造シタル凍水ヲ貯藏セント欲スル者ハ第一條ニ準シ初メニ貯藏場ノ検査ヲ受ケ尙發賣ノ期ニ至リ第四條ニ準シ更ニ品質ノ検査ヲ受クヘシ但他管ヨリ輸送スルモノハ其管轄應許可ノ證ヲ差出スヘシ尤時宜ニ依リ貯藏ノ以前其品質ヲ検査スルコトアルヘシ

第七條 貯藏ノ氷雪未タ發賣検査ヲ經サル以前醫師ニ於テ患者ノ外用ニ供シ又ハ動植物貯藏ノ用ニ供

スル等ノ目的ニテ賣渡シ又ハ授與スルトキハ其需用セル書面等ノ證トナルヘキモノヲ添ヘ貯藏場所在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ但氷雪融解スルカ又ハ事故アリテ發賣セサルキモ其旨届出ヘシ

第八條 發賣検査ヲ經タル(他府縣ノ検査ヲ經タルモノノ亦同シ)氷雪ヲ卸小賣若クハ行商セント欲スル者ハ第三號書式ノ願書ニ試験成績告示書(他人ノ製造貯藏ニ係ルモノハ告示書ノ寫)ヲ添ヘ所管郡役所ヘ差出シ第四號雛形ノ營業鑑札ヲ申受ケ居商ハ店頭ニ揭示シ行商ハ之ヲ携帯スヘシ但甲者ノ製造セシ氷雪ヲ販賣スル者更ニ乙者ノ製造セシ氷雪ヲ販賣セントスルキハ其都度試験成績告示書寫ヲ添ヘ郡役所ヘ届出ヘシ

第九條 前條許可ヲ得テ氷雪ヲ販賣スル者ハ何地製造ノ凍氷若クハ積雪ト大書シタル看板ヲ居商ハ店頭行商ハ其行商具ニ揭示スヘシ

第十條 既ニ許可ヲ得テ販賣スルモノト雖モ賣品中有害品アルコトヲ發見スルキハ直ニ其販賣ヲ差止メ

又ハ主務官吏ヲ派出シ更ニ試験ヲ遂ケ果シテ有害品ナルキハ第五條但書ニ準シ處分スヘシ
第十一條 試験成績告示書(發賣ヲ許可セル者ニ限ル)及營業鑑札ハ製造若クハ貯藏セシ氷雪ヲ賣盡シ又ハ販賣ヲ止メタルトキハ速ニ返納スヘシ但本文告示書及鑑札ノ効力ハ下付シタル年ノ十二月卅一日限トス
第十二條 營業鑑札ヲ貸借シ若クハ鑑札ヲ所持セスシテ氷雪ヲ飲料ノ爲メニ販賣スルヲ許サス
第十三條 製造若クハ貯藏ノ節檢査ヲ受ケタル氷雪ト雖モ更ニ發賣檢査ヲ受ケサルモノハ飲料ノ爲メニ販賣スルヲ許サス
(廿年二月縣令第八十一號ニテ改正)
第十四條 第十二條第十三條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス
第壹號

凍水製造(凍水或ハ積雪貯藏)願(用紙半紙ニテ通)何郡何町(村)官(民)有地何山(谷)字何々ニ於テ凍水製造(何

府縣下何所ニ於テ何某製造ノ凍水或ハ天然ノ積雪貯藏)仕度候間御檢査被成下度依テ別紙畧圖面并官地拜借願書(地所關係人連署書面)相添此段奉願候也

年月日 氏 名印 住所族籍

滋賀縣令氏名殿 前書ノ通相違無之ニ付與印仕候也

戶長(本人現住地ノ戶長)

氏 名印

戶長(製造場若クハ貯藏場所在ノ戶長)

氏 名印

衛生委員(全上)

氏 名印

第二號

凍水(積雪)發賣御檢査願(用紙半紙ニテ通)本年何月何日付ヲ以出願何月何日御許可相成何郡何町(村)何所ニ於テ製造(貯藏)ノ凍水(積雪)今般發賣仕

度候間御検査被成下度此段奉願候也
 (署名奥書式等第壹號式ニ準ス)
 第三號

一 凍氷(積雪)販賣營業鑑札下渡願
用紙半紙ニテニ通

何程
(十七年甲第四十二號布達ヲ以テ此賣上々見積金何程ノ十字删除)

製造(貯藏)人住所族籍

右卸(小賣)(行商)仕度候間營業鑑札御下渡被下度依テ別紙品質試驗成績告示書相添此段奉願候也

住所族籍
 本人 氏 名印
(十七年甲第四十二號布達ヲ以テ同業者住所族籍氏名ノ取删除)

年月日
 滋賀縣何郡長氏名殿
 前書ノ通相違無之ニ付奥印仕候也
 戸長

第四條

營業鑑札雛形

第何號	衛生委員 氏 名印
凍氷(積雪)卸(小)賣(行商)營業 營業人 住所族籍 氏 名	木製 寸法 居商ハ 縱八寸 橫四寸
裏 年月日 滋賀縣 何郡役所 印	行商ハ 縱三寸五分 橫二寸

藥舖藥種商營業規則

○甲第三十貳號 明治十八年三月三日
 藥舖藥種商營業規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

藥舖藥種商營業規則

(別冊)

藥舖藥種商營業規則

第一條 藥品賣買營業者ヲ分テ藥舖藥種商ノ二種トス

第二條 藥舖ハ醫師ノ處方書ニ依リ調劑シ藥種商ハ單味ノ藥品ヲ賣買スルモノトス但藥舖ノ免許ヲ受ケタル者ハ藥種商ノ業ヲ營ムコトヲ得

第三條 藥舖ノ免許ヲ得ント欲スル者ハ第一號書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ願出試驗ヲ請フヘシ

第四條 當廳ニ於テハ左ノ試驗ヲ遂ケ内務省ニ具申シ合格ノ者ハ同省ノ免狀ヲ附與スヘシ

第一 試驗科目

算術

物理學大意

化學大意

藥物學大意

調劑學大意

第二 試驗問題ハ一科二題トシ答記時間ハ一題一時間ヲ超ルヲ許サス(二十一年縣令第七十號ヲ以テ改正)

第三 受験人ハ書籍ヲ携帶シテ試驗場ニ入ルヲ許サス且一問ノ答記ヲ了ラサル間ハ他席ニ出ルヲ許サス

第五條 官立學校ニ於テ製藥學卒業證書ヲ得タル者ハ該卒業證書及其寫ニ履歷書ヲ添ヘ願出ルルハ更ニ試驗ヲ要セス内務省ニ具申シ同省ノ免狀ヲ附與スヘシ

第六條 藥舖主代換リニ際シ其相續人藥舖ノ業ヲ繼續セント欲スルモ幼少ナルカ或ハ事故アリテ試驗ヲ受クル能ハサルルハ別ニ藥舖ノ免許ヲ得ル主ト同居又ハ通勤シ得ヘキモノヲシテ調劑等ノ事ヲ擔當セシムルニ於テハ當分其營業ヲ許スヘシ故ニ第一號書式ノ願書ニ調劑擔當人ノ履歷書及免狀寫ヲ添ヘ所管郡役所ヘ差出スヘシ但相續人十六年未滿

ナルカ又ハ白痴癡癩瘡啞者ナルキハ後見人ヲ定ムルニアラサレハ免許セサルヘシ

第七條 藥舖他所ニ支店ヲ設ケント欲スル者ハ別ニ藥舖免許ヲ得其支店ニ同居シ得ヘキ者ヲシテ調劑等ノ事ニ擔當セシムルニ於テハ其營業ヲ許スヘシ故ニ第三號書式ノ願書ニ調劑擔當人ノ履歷書及免狀寫ヲ添ヘ支店所在ノ郡役所ヘ差出スヘシ

第八條 藥舖ハ醫師ノ處方書ニ據リ調劑スルノ外他人ノ請求アルモ病ヲ診シ又ハ容体ヲ問ヒテ方藥ヲ與フルヲ許サス

第九條 前條處方書中醫師ノ住所氏名年月日捺印等具備セサルモノハ勿論藥各用法等不明瞭ナルカ又ハ其分量不相當ト認ムルキハ必ス一應處方主ニ照會シ然ル后調劑スヘシ

第十條 醫師ノ處方書ハ順次集綴保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ

第十一條 藥舖ニ於テ醫師ノ處方書ニ據リ調劑シタ

ルキハ其包紙貼紙等ニ用量用法ハ勿論及外用ノ別及處方主患者等ノ氏名並藥舖ノ住所氏名ヲ明記スヘシ

第十二條 藥舖ニ於テ藥品取扱規則第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルキハ該則第五條ニ據ルノ外尙ホ其容器若クハ包紙ニ藥舖ノ住所氏名ヲ明記スヘシ

第十三條 藥種商ヲラント欲スル者ハ所管郡役所ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ但十六年未滿ノ者及白痴癡癩瘡啞者等ハ後見人ヲ定ムルニ非ラサレハ免許セサルヘシ

第十四條 藥種商ハ單味ノ藥品ヲ販賣スルノ外ハ假令醫師ノ處方書アルモ方劑ヲ調合スルヲ許サス

第十五條 藥種商ハ藥品取扱規則第二類第三類ノ藥品ハ製造者ノ封緘セル容器ノ儘販賣授受スルノ外封緘ヲ解キ小分ケシテ販賣授受スルヲ許サス

第十六條 藥舖藥種商ニ於テ藥品取扱規則第一類ノ藥品中第二類第三類ニ屬セサルモノヲ小分シテ販

賣スル片ハ必ス其容器若クハ包紙へ藥名並藥舖藥種商ノ住所氏名ヲ明記スヘシ

第十七條 藥舖藥種商ニ於テ藥品取扱規則第二類第三類ノ藥品ヲ貯藏スル片ハ戸棚若クハ箱等ニ容レ他ノ藥品ト區別シ其容積ニハ明瞭ニ藥品ノ名稱ヲ記載スヘシ

第十八條 藥舖藥種商ハ左ノ標札ヲ其店頭ニ揭示スヘシ

□ 藥舖(藥種商)

何郡何町何番地
氏名

寸法
縱二尺五寸
横七寸
但木製

第十九條 他管ニ於テ内務省ノ免狀ヲ受ケタル者當縣下ニ轉籍若クハ寄留シテ開業セント欲スル片ハ免狀寫ニ履歷書ヲ添へ所管郡役所ヲ經テ當廳へ届出ヘシ但轉籍ニ係ル者ハ免狀書換ヲモ請願スヘシ

第二十條 内務省ノ免狀ヲ有スル者他(管内外)轉籍若

クハ寄留スル片ハ其旨所管郡役所ヲ經テ當廳へ届出ツヘシ但他管へ轉籍ノ者ニ係ル免狀書換ハ入籍地ノ管廳へ請願スヘシ

第二十一條 免許鑑札ヲ有スル者他へ轉籍若クハ寄留スル片ハ其管外ニ係ル者ハ鑑札ヲ返納シ管内ニ係ル者ハ移住地ノ郡役所ヲ經テ書換ヲ請願スヘシ

第二十二條 免狀免許鑑札ハ本人廢業若クハ死亡シタル片ハ之ヲ返納シ改氏名其他身上ニ異動ヲ生シ又ハ水火盜難過誤等ニテ毀失シタル片ハ其事由ヲ具シ書換ヲ請願スヘシ

第二十三條 免許ヲ得シテ藥舖藥種商ノ業ヲ營ミ又ハ此規則第八條第十四條第十五條ニ違背シタルモノハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第二十四條 本縣ノ免許鑑札ヲ有スル藥舖並ニ藥種商ニシテ此規則ニ違背シ又ハ業務ニ關シ處刑ヲ受ケタルモノハ營業ヲ停止又ハ禁止スルコアルヘシ

第二十五條 (二十年二月縣令第
八十一號ニテ刪除)
第一號

藥舖開業願 用紙美濃紙
ニテ三通

私儀今般藥舖開業仕度候間御成規ノ通御試驗ノ上
御許可被成下度依テ別紙履歷書相添此段奉願候也

住所族籍

年月日

氏 名印

滋賀縣令氏名殿

戶長

氏 名印

衛生委員

氏 名印

履歷書 用紙美濃紙
ニテ三通

住所族籍

住所族籍

氏 名印

年號何年何月生

年號何年何月生

一年號何年何月ヨリ何縣何所何某ニ從ヒ何年何月迄藥學何科修業

一年號何年何月ヨリ何月迄何縣府ニ於テ何々勤務
右之通相違無之候也

右

年月日

氏 名印

第二號

調劑擔當人相定藥舖營業願 用紙半紙
ニテ三通

私何某儀從前藥舖營業罷在候處今般隱居(死亡)仕私
何某儀家名相續仕候ニ付引續營業仕度候處幼少(何
々)ニ付即今御試驗難相受依テ何某ヲ以テ調劑擔當
人ト定メ藥舖營業仕度候條御許可被成下度別紙何
某履歷書並免狀寫相添連署ヲ以テ此段奉願候也

住所族籍

年月日

本人(何某
後見人) 氏

名印

全上

調劑擔當人 氏

名印

滋賀縣令氏名殿

與書式第一號ニ同シ

履歷書式第一號ニ同シ

第三號

藥舖支店開設願

用紙半紙ニテ通

私儀藥舖營業罷在候處今般何郡何村何番地へ支店ヲ設ケ何某ヲ以テ該店調劑擔當人ト定メ營業仕度候間御許可被成下度依テ別紙何某履歷書並免狀寫相添此段奉願候也

住所族籍

年月日

本人 氏

名印

全上

支店調劑擔當人 氏

名印

滋賀縣令氏名殿

與書式第一號ニ同シ但本人住所及支店所在地ノ戶長衛生委員與書スヘシ

履歷書式第一號ニ同シ

右掲記外ノ願屆書ハ適宜ニ認ムヘシト雖モ用紙ハ履歷書及內務省ノ免狀書換等ニ係ル願屆書ハ美濃紙其他ノ願屆書ハ半紙ヲ用ヒ必ス戶長衛生委員ノ與書調印ヲ要スルモノトス

○甲第三十四號 明治十八年三月三日

今般本縣甲第卅二號ヲ以テ藥舖藥種商營業規則相定候處本則發行以前開業ノ藥舖ハ更ニ試驗ヲ要セス來ル明治廿一年十二月三十一日マテ其儘營業差許候條此旨布達候事

但從來開業ノ藥舖主死亡又ハ隱居シ其相續人ニシテ藥舖ノ業ヲ繼續セント欲スル者ハ本文期限内ハ願ニ依リ試驗ヲ要セス營業ヲ許可スヘシ

產婆營業規則

○甲第三十三號 明治十八年三月三日

產婆營業規則別冊ノ通相定候條此旨相達候事但開業試驗實施ノ期日ハ追テ可相達ニ付夫マテハ從前ノ手續ニ據リ可願出尤モ志願ノ者ハ右期日內

產婆營業規則

百十九

ト雖モ本則第一條ニ據リ願出ル時ハ試験ヲ遂ケ免
狀ヲ交付スヘシ

(別冊)

産婆營業規則

第一條 産婆ノ免許ヲ得ント欲スル者ハ下ニ示ス書
式ノ願書並ニ免許産婆ノ助手トナリ平産十人以上
難産二人以上ヲ取扱ヒタル履歷書ニ教師ノ證書ヲ
添ヘ所管郡役所ヲ經テ當廳ニ願出試験ヲ請フヘシ

第二條 當廳ニ於テハ左ノ試験ヲ遂ケ内務省ニ具申
シ合格ノ者ハ同省ノ免狀ヲ付與スヘシ

第一 試験科目

婦人生殖器ノ構造及生理概畧

妊娠ノ徵候監別及攝生法

順産ノ處置及不順産ノ處置

産前後ノ注意及生兒ノ取扱法

第二 試験問題ハ壹科二題トシ答記時間ハ一題二
時間ヲ超ルヲ許サス但筆記ヲ能クセサル者ハ口

答セシメ傍ニ於テ筆記セシムヘシ
第三 受験人ハ書籍ヲ携帶シテ試験場ニ入ルヲ許
サス且一問ノ答記ヲ了ラサル間ハ他席ニ出ルヲ
許サス

第三條 從來開業ノ者ニテ當縣産婆免許鑑札ヲ有ス
ル者ハ試験ヲ要セス當分營業スルヲ許ス但從來開
業ノ者ト雖モ本免狀ヲ得ント欲スルモノハ第一條
ノ手續ニ據リ願出ヘシ

第四條 産婦及生兒ニ對シ針灸ハ勿論藥劑ヲ與ヘ若
クハ藥方ヲ指示スヘカラス

第五條 難産ノ場合ニ於テハ醫師ノ差圖ヲ受ケルニ
非レハ妄リニ手ヲ下スヘカラス但時機切迫醫ヲ請
フノ暇ナキ場合ハ格別ナリトス

第六條 産婆ハ如何ナル難産ノ場合ト雖モ一切器機
ヲ使用スルヲ許サス

第七條 他管ニ於テ内務省ノ免狀ヲ受ケタル者當縣
下ニ轉籍若クハ寄留シテ開業セント欲スルハ免

狀寫ニ履歷書ヲ添ヘ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ届出
ヘシ

但轉籍ニ係ル者ハ免狀書換ヲモ請願スヘシ

第八條 內務省ノ免狀ヲ有スル者他(管内外ヲ問ハ
ス轉籍若クハ寄留スルキハ其旨所管郡役所ヲ經テ
當廳ヘ届出ヘシ

但他管ヘ轉籍ノ者ニ係ル免狀書換ハ入籍地ノ管
廳ヘ請願スヘシ

第九條 免許鑑札ヲ有スル者他ヘ轉籍若クハ寄留ス
ルキハ其管外ニ係ル者ハ鑑札ヲ返納シ管内ニ係ル
者ハ移住地ノ郡役所ヲ經テ書換ヲ請願スヘシ

第十條 免狀免許鑑札ハ本人廢業若クハ死亡シタル
キハ之ヲ返納シ改氏名其他身上ニ異動ヲ生シ又ハ
水火盜難過誤等ニテ毀失シタルキハ其事由ヲ具シ
書換ヲ請願スヘシ

第十一條 免許ヲ得シテ產婆ノ業ヲ營ミ又ハ此規
則第五條第六條第七條ニ違背シタル者ハ違警罪ト

シ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上
壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條 本縣ノ免許鑑札ヲ有スル產婆ニテ此規則
ニ違背シ又ハ總テ產婆ノ業務ニ關シ處刑ヲ受ケタ
ル者ハ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

(書式)

產婆開業願 用紙美濃紙
ニテ三通

私儀產婆開業仕度候間御成規ノ通御試驗ノ上御許
可被成下度依テ別紙履歷書並師家證書相添此段奉
願候也

住所族籍

氏

名印

年月日

滋賀縣令氏名殿

前書之通相違無之ニ付與印仕候也

戶長

氏

名印

衛生委員

履歷明細書 用紙美濃紙ニテ二通

氏 名印

住所族籍

氏 名

年號何年何月生

一年號何年何月ヨリ何府縣何所何某ニ從ヒ何年何月迄何學修業

一年號何年何月ヨリ何府縣何所產婆何某ノ助手トナリ何年何月迄平産何人難産何人ヲ取扱フ

右之通相違無之候也

右

年月日

氏 名印

右掲記外ノ願届書ハ適宜ニ認ムヘシト雖モ必ス衛生委員ノ與書調印ヲ要スルモノトス

鍼灸術並按摩營業取締規則

○甲第百八十號 明治十八年十二月廿一日

鍼灸術並按摩營業取締規則左ノ通相定候條此旨布達

候事

鍼灸術並按摩營業取締規則

第一條 鍼治(毫鍼ヲ云フ)又ハ灸治墨灸藥灸水灸漆灸

ト稱スル類ノモノ包含スノ業ヲ營マント欲スルモノハ第一號書式ニ據リ修業履歷書及ヒ師家ノ證書

ヲ添ヘ縣廳ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ但墨灸藥灸水灸漆灸ノ類ハ別ニ其方劑書ヲ付スヘシ

第二條 前條營業者ハ滿二十年以上ノモノニ非レハ許可セサルモノトス

第三條 按摩(按腹又ハ乳揉ト稱スル類ノモノモ含有ス)ノ業ヲ營マント欲スルモノハ第二號書式ニ據リ

所管郡役所ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ

第四條 免許鑑札ヲ毀失シ若シハ改氏名轉居等ノ節ハ再渡又ハ書換ヲ乞ヒ廢業死亡又ハ他管ヘ轉籍寄

留スル片ハ鑑札ヲ返納スヘシ

第五條 各營業者ハ其業名並ニ氏名ヲ記シタル看板

ヲ表出シ且ツ他出シテ營業スル片ハ必ス鑑札ヲ携

帶スヘシ

第六條 鑑札ヲ貸與シ又ハ讓與スルヲ許サス

第七條 醫師治療中ノ患者ニ對シテハ其醫師ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鍼灸治療等ノ術ヲ施スヲ許サス

第八條 人ニ藥劑ヲ與フルハ勿論藥方治療法等ヲ指示シ又ハ醫師ノ差圖ニ非スシテ其鍼灸角其他放血ノ術ヲ施スヲ禁ス

第九條 各營業者ハ一郡若クハ數町村同業者ノ申合ヲ以テ組合ヲ立テ其規約ヲ設クルヲ得

但組合格約ハ所管郡役所ノ認可ヲ經テ施行スヘシ

(二十年二月縣令第八十一號ニテ改正)

第十條 無鑑札ニテ營業シ又ハ此規則第五條第六條

第七條第八條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處スルノ外行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止又ハ禁止スルヲアルヘシ

第壹號書式 (用紙半紙)

鍼灸術營業願

私儀今般鍼灸術營業仕度候間免許鑑札御下附被成下度別紙修業履歷書並ニ師家ノ証書方劑書相添此段奉願候也

年號月日

滋賀縣令氏名殿

前書之通ニ付與印仕候也

住所族籍

氏 名印

戶長

氏 名印

履歷書 (用紙半紙)

住所族籍

寄留人ナレハ原籍府縣國郡區町村番地ヲ列記スヘシ

戶主又ハ何誰幾男女

氏 名

生年月

百二十三

一何年號月日ヨリ何府縣何ノ誰ニ從ヒ何年何月間
何學(術)修業
一何年號何月何府縣ノ免許鑑札ヲ得何年何月間
(灸)術營業

一何年號何月何國何郡何町(村)何番地へ轉住
一何々
一刑罰ノ有無
右之通相違無之候也
年號月日
右 氏 名印

第二號書式(用紙半紙)
按摩營業願
私儀今般按摩營業仕度候間免許鑑札御下附被成下
度此段奉願候也
年號月日
住所族籍
氏 名印

何郡長氏名殿
(與書式第一號ニ全シ)

○甲第七十九號 明治十八年十二月廿一日
明治十五年^二本縣甲第三拾壹號布達按摩針灸等營業
規則相廢候條此旨布達候事

灸治營業者ニ於テ毒藥劇藥ヲ配伍スル方劑
使用禁止

○縣令甲第九號 明治十九年八月七日
灸治營業者ニ於テ墨灸藥灸水灸漆灸ト稱スル類ニ要
スル方劑中明治十三年太政官第一號布告藥品取扱規
則第二類第三類ニ掲ケタル毒藥劇藥ヲ配伍スルモノ
ハ之ヲ使用スルコトヲ禁ス違フ者ハ違警罪ノ處分ニ
付セラルヘシ

入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則
○甲第八十一號 明治十八年十二月二十一日

入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則左ノ通相定候條
此旨布達候事

入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則
第一條 入齒齒抜口中療治接骨營業ハ從來免許ヲ受

灸治營業者ニ於テ毒藥劇藥ヲ配伍スル方劑使用禁止

ケ鑑札ヲ所持スルモノニ限ル

第二條 免許鑑札ヲ毀失シ若シハ改氏名轉居等ノ節ハ再渡又ハ書換ヲ乞ヒ廢業死亡又ハ他管へ轉籍寄留スルキハ鑑札ヲ返納スヘシ

第三條 他管ニ於テ從來開業ノ免許ヲ受ケタルモノ本縣管内へ轉籍寄留又ハ出張所ヲ設ケ開業セント欲スルキハ前管廳ノ免許証寫ヲ添へ縣廳へ願出ツヘシ

第四條 各營業者ハ其業名並ニ氏名ヲ記シタル看板ヲ表出スヘシ且ツ他出シテ營業スルキハ必ス鑑札ヲ携帯スヘシ

第五條 鑑札ヲ貸與シ又ハ讓與スルコトヲ許サス
第六條 局部外ノ施術及ヒ内服藥ヲ與へ又ハ其方劑ヲ指示スルコトヲ禁ス

第七條 明治十三年第一號布告藥品取扱規則第二類第三類ニ掲クル毒劇藥ハ施術上如何ナル場合ト雖モ之ヲ使用スルヲ許サス

第八條 各營業者ハ一郡若シハ數町村同業者ノ申合ヲ以テ組合ヲ立テ其規約ヲ設ケルコトヲ得但組合規約ハ所管郡役所ノ認可ヲ經テ施行スヘシ
(二十年二月縣令第八十一號ニテ改正)

第九條 無鑑札ニテ營業シ又ハ此規則第四條第五條第六條第七條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處スルノ外行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

○縣令甲第三十九號 明治十九年十一月十一日
入齒若シハ齒拔營業鑑札ヲ所持スルモノハ互ニ其業ヲ兼ルヲ得

賣藥部外藥劑調製並販賣規則

○甲第三十六號 明治十五年二月廿三日
賣藥部外藥劑調製并販賣規則別冊ノ通相定來ル四月一日ヨリ施行候條此旨布達候事
但從前當廳ノ許可ヲ得タル調劑者ハ更ニ願出ルニ及ハス候事

(別冊)

賣藥部外藥劑調製並販賣規則

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥部外藥劑トハ鼠取藥蠅取藥虱失セ紐ノ類其他田圃ニ用フル驅蟲藥飲食物ノ損敗ヲ修治防止スル諸藥等總テ人畜治病ノ目的ニ非スシテ調製販賣スル藥劑ヲ云フ

第二條 前條ニ掲グル藥劑ヲ調製シテ販賣セント欲スル者ハ第一號式ノ書面ニ製劑ヲ添ヘ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ但他管ニ於テ曾テ發賣ノ免許ヲ得タル者當縣下ニ轉籍若クハ寄留シテ仍ホ營業セント欲スル者モ本條ニ準シ願出ヘシ

第三條 當廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製劑配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及毒劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ
第四條 既ニ許可ノ後ト雖モ其製劑前條ニ掲グル有害品ナルヲ更ニ發見スルハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發

賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第五條 既ニ許可ヲ得タル製劑ト雖モ其藥味分量用法能書方名等ヲ改正セント欲スルハ一旦鑑札ヲ返納シ更ニ第二條ノ手續ヲ爲シ新鑑札ヲ願受クヘシ
第六條 調劑者免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スルハ第二號ノ書面ヲ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ差出シ鑑札書換ヲ請フヘシ但他管ノ者ヨリ讓受ケ又ハ他管ノ者ヘ讓渡スヲ許サス

第七條 第一條ニ掲グル藥劑ヲ請賣セント欲スル者ハ第三號式ノ書面ニ調劑者所持ノ免許鑑札寫ヲ添ヘ所管郡役所ヘ願出請賣鑑札ヲ受クヘシ但他管ノ調劑者ニ係ル藥劑ト雖モ其管轄廳許可ノ証アルモノハ當廳ノ許可ヲ得タルモノト同ク當縣下ニ於テ請賣スルコトヲ得ヘシ

第八條 調劑者及請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルハ第四號式ノ願書ヲ所管郡役所ヘ差出シ行商鑑札ヲ受ケ行

商スル片ハ必ス之ヲ所持スヘシ
 第九條 調劑者廢業スルカ又ハ禁止セラレ、片ハ速ニ請賣者賣子等ニ通知スヘシ
 第十條 請賣者賣子等前條ノ通知ヲ受ケタル片ハ速ニ販賣ヲ止メ鑑札ヲ返納スヘシ
 第十一條 諸鑑札ハ本人廢業若クハ死亡スル片ハ之ヲ返納シ改氏名代替リ其他身上ニ異動ヲ生シタル片ハ書換ヲ請フヘシ但廢業其他ノ事故ニ依リ鑑札ヲ返納スル片ハ其屆書ニ請賣者若クハ賣子ノ住所氏名ヲ記載スヘシ
 第十二條 水火盜難過誤等ニテ諸鑑札ヲ毀失シタル片ハ其事由ヲ詳具シ再渡ヲ請フヘシ
 第十三條 免許ヲ得スシテ藥劑ヲ調製販賣シ又ハ請賣行商シ又ハ此規則第五條第八條第九條第十條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處スルノ外其藥劑ハ行政ノ處分ヲ以テ廢棄セシムルヲアル、シ（十七年甲第十號布達ヲ以テ改正セラレ又二十年二月縣令第八十一號ニテ改正ニナル）

第一號

賣藥部外藥劑檢査願 用紙半紙ニテ貳通

一方名

藥品 分量

製法

用法

功能

右藥劑調製發賣仕度候間御檢査ノ上免許鑑札御下渡被下度依テ製劑相添此段奉願候也

住所族籍

氏

名印

年號月日

滋賀縣令氏名殿

前書相違無之ニ付與書仕候也

戶長

氏

名印

衛生委員

氏

名印

第二號

賣藥部外藥劑讓渡願 用紙半紙ニテ貳通

一方名

藥品 分量

製法

用法

功能

右ハ何年何月御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般
何某へ讓渡申候依テ所持ノ鑑札返納仕候間御書換
被下度此段奉願候也

年號月日

讓渡人 氏
住所族籍

名印

讓受人 氏
住所族籍

名印

滋賀縣令氏名殿

(與書式前同但讓渡人讓受人双方ノ戸長衛生委員與書調印スヘシ)

第三號

賣藥部外藥劑請賣願 用紙半紙ニテ一通

一方名

一方名

住所族籍

右調劑者

氏 名

(調劑者異ナレハ假令一方ヲリトモ必調劑者ノ
住所族籍氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ記載スヘシ)

右ノ藥劑何方請賣仕度依テ別紙調劑者所持ノ免許
鑑札寫相添此段奉願候也

住所族籍

年號月日

請賣願人 氏

名印

滋賀縣何郡長氏名殿

(與書式第壹號ニ同シ)

第四號

賣藥部外藥劑行商願 用紙半紙ニテ一通

一方名

一方名

一方名

住所族籍

右調劑者

氏 名

賣子 住所族籍 氏名
 (願人請賣者ナレハ左ノ通り認ムヘシ)
 右調劑者 住所族籍 氏名
 右請賣者 住所族籍 氏名
 (賣子ノ住所族籍氏名ハ前ニ同シ)
 右ノ藥劑自分賣子派出(行商仕度候間行商鑑札御下
 渡被下度此段奉願候也
 右調劑者(請賣者)
 年號月日 氏名印
 滋賀縣何郡長氏名殿
 (與書式第壹號ニ同シ)
 第五號

諸鑑札雛形

<p>調劑 免許 鑑札</p> <p>番號 賣藥部外藥劑許可之證</p> <p>一方名 住所 氏名</p> <p>右免許候事 年月日 滋賀縣 印</p> <p>寸法 縱五寸五分 橫四寸 但紙製</p>	<p>請賣 鑑札 表面</p> <p>番號 賣藥部外藥劑請賣許可之證</p> <p>一方名 一方名 一方名</p> <p>右請賣免許候事 年月日 滋賀縣 何郡役所 印</p> <p>寸法 同前 但紙製</p>	<p>全上 裏面</p> <p>調劑者 住所 氏名</p> <p>請賣者 住所 氏名</p>
--	--	--

製藥規則

行商
鑑札
表面

賣藥部外藥劑行商許可之證
一方名 一方名 一方名
一方名 一方名
右行商免許候事

寸法
縱三寸五分
橫貳寸五分
但木製

全上
裏面

年月日	烙印
滋賀縣 何郡役所	
番號	

製藥規則

○甲第十一號 明治十七年一月廿九日
明治九年五月本縣乙第七十七號布達製藥免許手續相廢
製藥規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事
但阿片製造ハ明治十一年八月第廿一號布告ニ據ヘシ
(別冊)

製藥規則

第一條 此規則ニ稱スル所ノ製藥トハ藥品ヲ製煉シ
醫療用若クハ職工用トシテ販賣スル者ヲ云フ

第二條 前條製藥ノ免許ヲ得ント欲スル者ハ第一號
書式ノ願書三通ヲ作り製品及製品ニ付スル標紙製
造方法書相添所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ願出ヘシ但
酒精及再餾酒精ヲ製造セント欲スル者ハ酒造稅則
ニ據リ酒類製造營業免許鑑札ヲ受ケタル後其鑑札
寫ヲ添ヘ本文ノ通り願出ヘシ(十七年甲第四百十八號布達ヲ以テ本條中(製品ニ付スル標紙)ハ加フ)

第三條 前條願出ルルキハ製品ノ試驗ヲ內務省ニ請ヒ
同省ノ免許鑑札ヲ交付スヘシ

第四條 製藥免許ヲ得タル者ハ店頭ヘ第二號式ノ看
板ヲ掲クヘシ

第五條 製品ニハ左ノ各項ヲ明記シタル標紙ヲ每容
器ニ貼付シテ販賣スヘシ(十七年甲第四百十八號布達ヲ以テ但書削除)

一官許ノ文字

一 藥名 (藥名ハ國字洋文兩様トモ記載スルハ妨ケナシト雖モ洋文ノミナ記スヘカラス必ス普通ノ譯名或ハ譯名ナキモノハ假名ニテ原名ヲ記スヘシ)
一 製造人ノ住所氏名

一 何國局方但酒精及再餾酒精ノ如キハ其強弱計度比
(十七年甲第四百十八號布達ヲ以テ改正)

第六條 製藥免許ヲ得タル者他ヨリ轉籍若クハ寄留
シテ營業セント欲スルハ該免許鑑札及其寫ヲ添
〜所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ届出ヘシ但其製藥酒精
及再餾酒精ニ係ルハ先ツ酒造稅則ニ據リ相當ノ
手續ヲ了シタル後酒造免許鑑札寫ヲ添ヘ本文ノ通
リ届出ヘシ

第七條 製藥免許ヲ得タル者廢休業又ハ住所ヲ轉セ
シト欲スルハ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ届出ヘシ
第八條 免許鑑札ハ廢業若クハ死亡シタルハ之ヲ
返納シ轉籍改氏名其他身上ニ異動ヲ生シタルハ
書換ヲ請ヒ水火盜難過誤等ニテ毀失シタルハ其
事由ヲ具シ再渡ヲ請フヘシ
(廿年二月縣令第八十一號ニテ改正)

第九條 免許ヲ得スシテ製煉シタル藥品ヲ販賣シ又
ハ標紙ヲ貼付セスシテ製藥ヲ販賣シタル者ハ刑法
第四百廿六條ノ刑ニ處ス
第一號 願書式 用紙美濃紙
製藥免許願

一 藥名
右ハ今般製造發賣仕度候間御試驗ノ上製造免許鑑札
御下渡被下度依テ製品及製品ニ付スル標紙製造方法
書並ニ酒造免許鑑札寫相添此段奉願候也
(十七年甲第四百十八號布達ヲ以テ本
式申(製品ニ付スル
標紙ノ八字ヲ加フ)

年號月日 住所族籍 名印
滋賀縣令氏名殿 氏 名印
前書相違無之ニ付與書仕候也 戶長 氏 名印
衛生委員

第二號 看板雛形

氏 名印

官 許 何々藥製造營業	住所 氏名
-------------------	----------

縱三尺
横壹尺

傳染病豫防細則

○甲第八十七號 明治十六年七月三十日
 傳染病豫防細則別冊ノ通相定メ來九月一日ヨリ施行
 候條此旨布達候事
 但從前當廳ノ布達々指令等ニシテ本則ニ抵觸ノ廉
 ハ總テ消滅候儀ト可相心得事
 (別冊)

傳染病豫防細則

第一章 總則

第一條 傳染病虎列拉、傷寒、赤痢、實布、利亞、豫防ノ方法ハ

明治十三年七月第三十四號布告傳染病豫防規則ノ外
 尙ホ本則ヲ施行スルモノトス但腸室扶私、赤痢、實布
 的利亞ノ三病ハ其ノ流行ノ兆アル旨告示シタル場
 合ニ於テ之ヲ施行ス

第二條 傳染病消毒ノ方法ハ明治十六年七月本縣告第

七十二號告示ニ依ルヘシ

第三條 自宅療養ヲ爲スルハ其病室ヲ異ニシ看護人

ヲ定ムヘシ但病室ヲ異ニスルヲ得サル場合ニ於テ

ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 自宅療養ヲ爲スルハ止ヲ得サル要用アル者

ヲ除クノ外他人ノ出入ヲ謝絶スヘシ

第五條 患者治癒死亡シ又ハ避病院へ送致シタル後

其衣服、臥具、器具、及病室等ハ掛官吏若クハ衛生委員

ノ指揮ヲ受ケ消毒法ヲ施行シ其久シク患者或ハ死

体ニ直接シ又ハ甚シク汚穢シタルモノハ燒却又ハ

埋却スヘシ

第六條 患者治癒シタル後又ハ看護人其他患者或ハ

死体ニ親接シタル者ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ消毒法ヲ行フニ非サレハ他人ト交通スヘカラス

第七條 病毒ニ汚染シタル臥具、衣服、器物ノ類ヲ洗滌シタル汚水ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指定シタル場所外ニ投棄スヘカラス

第八條 患者若クハ死体ニ觸接シ又ハ排泄物ニ汚染シタル臥具、衣服、器物ノ類ヲ湖川溝渠等ニ於テ洗滌スヘカラス

第九條 患者死亡セシトハ直ニ治療醫及衛生委員ニ通報スヘシ

第十條 死体ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ消毒法ヲ施行シ速ニ棺内ニ歛ムヘシ

(十九年四月甲第五十五號布達ヲ以テ改正)

第十一條 掛官吏ノ許可ヲ得ヌシテ患者及ヒ死体ヲ他ニ移轉スヘカラス
但傳染病豫防規則第十四條第二項ヲ施行スル場

合ニ於テハ吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病者死者モ亦本條ニ準ス

第十二條 航湖中船舶内ニ於テ傳染病若クハ該病ノ疑アル症ニ罹ル者又ハ其死者アルキハ施行シ得ヘキ豫防及消毒ノ方法ヲ行ヒ置キ着港ノ上直ニ其地掛官吏若クハ衛生委員ニ届出指揮ヲ受クヘシ

第二章 虎列刺病

第十三條 排泄物汚穢物ハ其都度消毒法ヲ施行シ有蓋ノ器物ニ入レ密閉シ置クヘシ

第十四條 掛官吏若クハ衛生委員ノ許可ヲ得ヌシテ患者ノ入リタル厠圍ヲ健康人ノ用ニ供シ又ハ其糞尿ヲ汲取ルヘカラス

第十五條 患者若クハ死体ヲ載セタル船、車、駕籠、釣臺等ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ毎回消毒法ヲ施行スヘシ

第十六條 火葬又ハ埋葬ノ處置方法ニ付テハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第十七條 患者療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避病院へ送致シタル後タリモ消毒法ヲ施行セサル以前ニ於テハ掛官吏ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其家内ニ在ル物品ヲ賣買受授スヘカラス

第十八條 患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛官吏ノ指定スル場所ニ碇泊シ其許可ノ證ヲ得ルニ非サレハ乗組人船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚地又ハ他船トノ交通並ニ他港へ進航スルヲ許サス

第三章

腸室扶私病
赤痢病

第十九條 排泄物汚穢物ハ其都度消毒法ヲ施行シ有蓋ノ器物ニ入レ密閉シ置クヘシ

第二十條 掛官吏若クハ衛生委員ノ許可ヲ得スシテ患者ノ入りタル厠園ヲ健康人ノ用ニ供シ又ハ其糞尿ヲ汲取ルヘカラス

第二十一條 患者若クハ死体ヲ載セタル船、車、駕籠、釣臺等ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ毎回消毒法ヲ施行スヘシ

第四章

實布屋利亞病

第二十二條 患者ノ痰唾液汗及之ニ汚穢スル綿布、紙屑ノ類ハ其都度消毒法ヲ行ヒ有蓋ノ器物ニ入レ密閉シ置クヘシ

第二十三條 患者若クハ死体ヲ載セタル船、車、駕籠、釣臺等ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ毎回消毒法ヲ施行スヘシ

第五章

發疹室扶私病

第二十四條 火葬又ハ埋葬ノ處置方法ニ付テハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十五條 患者療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避病院へ送致シタル後タリモ消毒法ヲ施行セサル以前ニ於テハ掛官吏ノ許可ヲ得ルニ非レハ其家内ニ在ル物品ヲ賣買受授スヘカラス

第二十六條 患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛官吏ノ指定スル場所ニ碇泊シ其許可ノ證ヲ得ルニ非サレハ乗組人船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚地又ハ他船

トノ交通並ニ他港へ進航スルヲ許サス

第六章 痘瘡病

第廿七條 火葬又ハ埋葬ノ處置方法ニ付テハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第廿八條 患者療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避病院へ送致シタル後タリモ消毒法ヲ施行セサル以前ニ於テハ掛官吏ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其家内ニ在ル物品ヲ賣買授受スヘカラス

第廿九條 落茄及病室ノ塵埃及患者ニ觸レタル綿布紙屑ノ類ハ斷片ニ至ル迄時々收拾シ之ヲ燒却スヘシ

第三十條 患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛官吏ノ指定スル場所ニ碇泊シ其許可ノ證ヲ得ルニ非サレハ乗組人船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚陸地又ハ他船トノ交通並ニ他港へ進航スルヲ許サス

第七章 罰則
第三十一條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ノ處分

ニ付スヘシ

(參考)

○告第七十二號 明治十六年七月三十日

傳染病消毒法別冊ノ通可相心得此旨告示候事

(別冊)

傳染病消毒法

凡ソ傳染病毒ハ其性分極メテ微小ニシテ見ルヘカラスト雖モ傳送物中ニ混入シテ人体ニ達シ其病症ヲ發現スルモノトス此傳送物ヲ滅スルハ即チ病毒モ亦消盡ス故ニ烈火ヲ用ヒ之ヲ燒盡スルハ消毒ノ最良トス然レモ其燒棄ニ付シ難モノハ或ハ藥劑ヲ用ヒテ蒸若クハ灌注シ或ハ之ヲ洗滌シ以テ其病毒傳染ノ力ヲ撲滅スルヲ得ヘシ然ラカレハ其病毒散蔓シテ終ニ消滅スルイナカラシ故ニ病毒萌動ノ後ニアリテハ消毒ヲ以テ豫防法中ノ最モ緊要ナルモノトス其科ヲ同シモス故ニ之ヲ分チ第一患者及ヒ看護人等

消毒法第二死体及ヒ排泄物等消毒法第三衣服、臥具等消毒法、第四家屋、船舶等消毒法、第五什具、運搬器等消毒法、第六園圃、溝渠等消毒法トス但實布埤利亞、發疹室扶私、痘瘡ノ三病ハ第六ノ消毒法ヲ行フノ限ニアラス消毒藥劑ハ其品類頗ル多シ且其性質功能モ亦同一ナラス故ニ其功能ヲ類別シテ第一號ヨリ第九號ニ至ルヲ以テ各病消毒法ノ條ト相照シテ之ヲ用フルニ便ニス

消毒藥

(第一) 濃厚石炭酸水

結晶石炭酸四分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ

但石炭酸一分ニ虞利斯林又ハ亞爾箇保兒貳分ヲ

和シテ能ク溶解シ後本量ノ水ヲ加フヘシ

(第二) 稀薄石炭酸水

結晶石炭酸二分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ

但溶解法前ニ同シ

(第三) 石炭酸蒸氣

結晶石炭酸(或ハ之ニ二倍ノ亞的兒ヲ加ヘタルモノ)

ナ皿ニ入レ微火ニ上セ蒸發セシメ或ハ石炭酸一分ニ溜水二十分ヲ和シ布片ニ蘸シ室内ニ懸ケ置キ蒸發セシムヘシ

(第四) 石炭酸末

粗製石炭酸ヲ以テ砂、灰、木炭末、鋸屑等ヲ濕漚セシメタルモノ

但粗製石炭酸ハ四十分ヨリ六十分ノ、フェニール

酸即チ結晶石炭酸ヲ含ミ稍々色ヲ帶ヒタル流動

石炭酸ナリ

以下消毒同効アルモノニシテ通常用ヒサル品

サリシル酸 三百倍ノ水ニ溶解ス

テール油

石炭酸石灰 石灰百分石炭酸三分

(第五) 流酸鐵合劑

綠礬三百匁ヲ常水一斗ニ和シ粗製石炭酸百匁ヲ加

ヘタルモノ

但此合劑ハ久ク貯フヘカラ大用ニ臨ミテ調製ス

（第六）硫酸硫酸鐵合劑

硫酸五分硫酸鐵六分水八十九分ヲ和シタルモノ
以下消毒同効アルモノニシテ通常用ヒサル品

鹽化亞鉛八倍ノ水ニ溶解セルモノ

明礬 粗製明礬ノ過量ヲ水中ニ投シ
能ク溶解シテ後其上清ヲ取ル

コロール明礬 四倍ノ水ニ溶解ス

皓礬 百二十倍ノ水ニ溶解ス

（第七）木炭 木炭二分生石灰二十分

（第八）石灰

其他木灰、錫屑、土等ハ又多少收結ノ功アルモノトス

（第九）亞硫瓦斯

硫黃ヲ燒テ瓦斯ヲ發生セシム其法ハ疊敷ノ室ニ硫
黃大約三百匁木炭末大約十匁ヲ加フルルハ更ニ宜
シヲ要ス但一時ニ火焰ノ昇騰スル恐アルヲ以テ二
三ノ火鉢ニ分配シ熾炭ヲ之ニ點シテ徐々ニ焚燒セ
シムヘシ

但多數ノ物品ヲ消毒スルニハ密閉シタル室土藏
ノ類ニ繩ヲ張り消毒スヘキ衣服等ヲ掛ケ或ハ竹
架ヲ設ケテ之ヲ排列シ本量ノ硫黃ヲ薰スヘシ又
人々各自ノ衣服ヲ消毒スルニハ一握ノ粗製硫黃
ヲ火鉢ニ入レ火ヲ點シ伏籠ノ類ヲ覆ヒ之ニ衣服
ヲ被ラセ薰蒸スヘシ

○虎列刺

凡ソ虎列刺ノ病毒ハ其吐瀉物ニ含ルモノトス故ニ吐
瀉物及ヒ之ニ汚染スルモノハ嚴ニ消毒法ヲ行フヘシ
就中之ヲ燒滅スルヲ以テ最良法トス患者及ヒ其死体
ハ直ニ病毒ヲ傳フル者ニ非スト雖モ吐瀉物ニ汚染ス
ルヲ以テ亦病毒汚染物ト同視スヘシ消毒法ハ其物ニ
從テ區別スルヲ左ノ如シ

第一 患者及看護人等消毒法

第一條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院
ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹼水ヲ用ヒテ全身ヲ
洗ヒ他ノ衣服若シハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着ス

へシ吐瀉物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死体取扱人等ノ他人ニ接スルキハ亦此法ニ從フヘシ

第二條 自宅療養ノ看護人及ヒ患者運搬人又ハ船中ニテ患者ト同席シタル者ノ他人ト交通スルトキハ必ス沐浴更衣スヘシ

第三條 病家ニ於テ止ムヲ得サル事故アリテ看護人其他患者ニ親接セル者ノ他出スルキハ必ス其身体ヲ洗淨シテ更衣スヘシ

第四條 自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ患者ニ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ消毒法ヲ行フヲ要セサレモ其家ヲ出ルニ臨テ盥嗽スルヲ良トス但誤テ吐瀉物ノ爲メニ其衣服等ヲ汚シタルキハ第十二條ニ據リ消毒法ヲ行フヘシ

第五條 死体ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若シハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミナルヘシ速ニ棺内ニ歛ムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ヲ用テ灌腸シ

然ル後綿ヲ以テ肛門ヲ塞クコトヲ得ハ最良トス

第六條 死体ハ醫師確認ノ後ハ成ルヘク速ニ火葬スヘシ若シ止ヲ得ス埋葬スルキハ墳穴ノ深サハ各地ノ燥濕高低ニ從ヒ凡ソ八尺以上一丈二尺以下タルヘシ

第七條 船舶航行中死者アルキハ速ニ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル單衣若シハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ歛メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌注スヘシ

第八條 吐瀉物及之ニ汚染セル紙屑、布片等ハ之ヲ金屬又ハ陶製ノ便器、嗽盤等ニ承ケ之ト同量ノ濃厚石炭酸水(第一)石炭酸若シ缺之ノ時ニ際シテハ硫酸鐵合劑、ヲ灌キ壺或ハ桶ニ入レ戶外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付スヘシ

第九條 避病院又ハ各病家ヨリ運搬シタル吐瀉物汚穢物ヲ燒却スルニハ豫テ定メ置キタル場所ニ適宜ノ穴ヲ掘リ厚ク灰或ハ石灰ヲ其底ニ敷キ乾キタル

糞、鉋屑、落葉、枯草ノ類ニ石炭油ヲ注キテ其上ニ置キ之ニ吐瀉物ヲ投シ再ヒ同前ノ燃料ヲ覆ヒテ火ヲ點スヘシ火勢減スルキハ更ニ油ヲ注キテ屢々攪挑シ全ク燒盡スルヲ期スヘシ但其汚汁ノ地中ニ滲透セサル様注意スルヲ要ス

第十條 吐瀉物ハ前條ノ如ク燒却スルヲ法トスレモ若シ水分多クシテ燒却シ得サル場合ニ於テ之ヲ埋却スルニハ多量ノ濃厚石炭酸水(第一)ヲ灌キ其埋穴ノ深サハ第六條ニ準スヘシ

第十一條 患者ノ入りタル厠圓ノ糞汁ハ法ノ如ク燒却スヘキモ若シ大量ニシテ燒却シ難キモノハ石炭酸末(第四)五分ノ若シ其缺乏ニ際シテハ生石灰(糞汁ノ三分)ヲ投シテ汲取リ豫定ノ場所ニ埋却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第十二條 甚シク吐瀉物ニ汚染シ又ハ久シク患者若クハ死体ニ直接シタル衣服、臥具、蚊帳、疊、蓆等ハ之ヲ燒却スヘシト雖モ其汚染スルヲ甚シカラズ患者若

クハ死体ニ接スルヲ久シカラズシテ洗濯ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置シテ廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等ノ缺乏ニ際シテハ熱湯中ニ入レ一時間以上之ヲ煮沸スヘシ其洗濯ニ堪ヘサルモノハ其品種ニヨリテ亞硫酸瓦斯(第九)若クハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸スヘシ

第十三條 吐瀉物運搬人及避病院ノ醫師看護人死体取扱人等ハ患者及汚穢物ニ親接スルヲ久シク若クハ屢次ナルヲ以テ其衣服等ニ消毒法ヲ施スヲ前條ニ同シ但本文ニ掲グル所ノ者日々衣服ヲ更換セハ沸湯中ニ入レ一時以上ニ之ヲ煮沸スルヲ以テ足レリトス第十四條 自宅療養ノ看護人及死体運搬人又ハ船中等ニテ患者ト同席シタル者ノ衣服手道具等ハ直ニ病毒ニ汚染セサルモ稍々浸染ノ疑アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薰蒸シ日光

及大氣ニ曝スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第十五條 患者及死体ヲ置キタル室ノ疊、筵類ハ之ヲ柱若クハ塗ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニ在リシ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ吐瀉物ニ汚染ノ嫌アル板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ之ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室、屍室及臨時避病院ニ假用セシ家屋モ亦之ニ倣フヘシ但金銀器、書畫其他彩色ヲ施セル物及絹帛等亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ初ニ之ヲ取除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸スヘシ

第十六條 患者アリタル西洋形船舶ノ消毒法ハ前條ヲ適用シ患者ト船室ヲ同クシタル乗客及其手荷物ニハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ其室内ニ若シ積荷アリハ其儘六時乃至八時間間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ

品物ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸スヘシ但日本形小船ハ適宜本條ヲ斟酌シテ施行スヘシ

第十七條 病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘク是亦多少消毒ノ効アルモノトス

第十八條 臨時假設ノ避病院ニシテ流行終ル後之ヲ取毀ツニハ其前先ツ汚穢シタル板敷板壁及柱等ハ濃厚石炭酸水(第一)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ

第五 什具、運搬器等消毒法

第十九條 吐瀉物ヲ承ケタル漱盤、便器等ハ之ヲ用フル毎ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗淨スヘシ但木製ノ便器等ハ其用ヲ終ルノ後燒却スヘシ

第二十條 患者及死体若クハ病毒ニ觸レタル物品ヲ運ヒタル舟、車、駕籠、其他運搬器等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌注シ更ニ石鹼水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨スヘシ但駕籠ハ若シ甚シク吐瀉物ニ汚染シタルハ之ヲ燒却スヘシ

第廿一條 患者ニ用ヒタル什具ハ総テ稀薄石炭酸水
(第二)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨シ乾カ
 スヘシ其洗フヘカヲサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行
 フノ際其内ニ排列シ 濕潤ニ堪フヘキモノハ病室ニ消毒法ヲ行
 ハ之ヲ濕スチ長トス 亞硫酸瓦斯(第九)或
 ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ一時間蒸スヘシ
 第廿二條 病室ニ在リタル書籍、新聞紙ノ類ハ之ヲ展
 シ石炭酸蒸氣(第三)若クハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ蒸
 蒸スヘシ
 第廿三條 醫術器械及木製、金屬製、陶製、漆製ノ諸器ニ
 シテ病毒ニ觸レタルモノハ總テ稀薄石炭酸水(第二)
 ナ以テ洗フヘシ
 第六 廁圍、溝渠等消毒法
 第廿四條 患者ノ入リタル廁圍及嘔吐シタル地ニハ
 充分硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キ其廁圍ノ糞汁ハ速ニ之
 ナ汲取リ第九條第十一條ニ據リ處分シ其跡ヘ復硫
 酸鐵合劑(第五)ヲ注入シ其嘔吐シタル地ハ速ニ之ヲ
 掃除シ穢土ハ第九條ニ準シ處分スヘシ

第廿五條 廁圍ノ糞壺又ハ桶ノ破壞シテ病毒滲漏ノ
 疑アルモノハ速ニ之ヲ掘除ケ其周圍並ニ底面ノ土
 モ亦深ク掘取リ濃厚石炭酸水(第一)ヲ充分ニ灌注シ
 豫定ノ場所ニ埋却シ其跡ニモ同様ノ消毒藥ヲ注キ
 更ニ新土ヲ填ムヘシ
 第廿六條 若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ混入シタ
 ルトアルトハ硫酸鐵合劑(第六)ヲ注キ其淤泥ヲ
 撈ヘ豫定ノ場所ニ埋却シ後多量ノ水ヲ灌キテ疏通
 セシムヘシ
 ○腸室扶私
 凡ソ腸室扶私患者ノ瀉下物及之ニ汚染シタル衣服器
 具、等並ニ其病室、廁圍便器等ハ盡ク病毒傳播ノ恐アル
 モノトス故ニ左ノ區別ニ從ヒ消毒法ヲ行フヘシ
 第一 患者及看護人等消毒法
 第一條 患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又久シク患
 者ニ親接セル看護人ノ他人ト交通スルトハ沐浴換
 衣スヘシ

第二 死体及排泄物等消毒法

第二條 死体ハ速ニ棺内ニ歛ムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸セル綿ヲ以テ肛門ヲ塞クヲ得ハ最良トス

第三條 瀉下物及之ニ汚穢セル紙屑布片等ハ之ヲ便器ニ承ケ稀薄石炭酸水(第一)ヲ澁キ壺或ハ桶ニ入レ戶外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付スヘシ

第四條 避病院又ハ各病家ヨリ運搬シタル瀉下物汚穢物ハ豫定ノ場所ニ埋却スヘシ

第三 衣服臥具等消毒法

第五條 衣服臥具ノ瀉下物ニ汚染シタルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗淨シ或ハ之ヲ煮沸シテ後石鹼水ヲ以テ洗淨スヘシ

第四 家屋船舶等消毒法

第六條 患者及死体ヲ置キタル家屋船舶及避病院ノ病室屍室ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ燻シ或ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ拭淨スヘシ但室内ハ常ニ注意シテ空

氣ヲ流通スヘシ

第五 什具運搬器等消毒法

第七條 病室ニ用ヒタル什具ハ直ニ瀉下物ニ汚穢スルニ非レハ消毒ヲ要セサレ其汚穢セルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗滌シ又ハ品種ニヨリ熱湯ヲ注キテ後石鹼水ヲ以テ洗フヘシ但木製ノ便器ハ其用ヲ終ルノ後之ヲ燒却スヘシ

第八條 患者若クハ死体ヲ運ヒタル器具ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第二十條ヲ適用スヘシ

第六 廁園溝渠等消毒法

第九條 患者ノ入リタル廁園ノ糞汁ハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キテ之ヲ汲取り豫定ノ場所ニ搬送シテ埋却スヘシ

第十條 若シ誤テ瀉下物ヲ溝渠下水等ニ混入シタルアルキハコロール石灰ヲ撒布シ水ヲ以テ疏通セシムヘシ

○赤痢

凡ソ赤痢患者ノ瀉下物及之ニ汚染セル衣服、臥具等並ニ病室、廁圍、便器等ハ皆病毒傳播ノ恐アルモノトス故ニ左ノ區別ニ從ヒ消毒スヘシ

第一 患者及看護人等消毒法

第一條 患者及看護人等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第一條第二條ヲ適用スヘシ

第二 死体及排泄物等消毒法

第二條 死体ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第五條ヲ適用スヘシ但此患者ノ死体ハ最腐敗シ易キヲ以テ速ニ棺内ニ歛メ且成ルヘク速ニ之ヲ火葬若クハ埋葬スヘシ

第三條 瀉下物及之ニ汚穢セル紙屑布片等ハ之ヲ便器ニ承ケ濃厚石炭酸水(第一)或ハ硫酸鐵合劑(第五)或ハ硫酸硫酸鐵合劑(第六)ヲ注キ壺或ハ桶ニ入レ戶外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付スヘシ

第四條 避病院又ハ各病家ヨリ運搬シタル瀉下物汚穢物等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第九條第十條ヲ適用スヘシ

第三 衣服、臥具等消毒法

第五條 衣服、臥具等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第十二條第十三條第十四條ヲ適用スヘシ

第四 家屋、船舶等消毒法

第六條 家屋、船舶等消毒法ハ虎列刺ノ部第十五條第十六條ヲ適用スヘシ

第五 什具、運搬器等消毒法

第七條 什具、運搬器等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第十九條ヨリ第廿三條迄ヲ適用スヘシ

第六 廁圍溝渠等消毒法

第八條 患者ノ入りタル廁圍ハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キ其糞汁ハ速ニ汲取り豫定フ場所ニ搬送シテ之ヲ埋却シ其糞壺ニハ同様ノ消毒法ヲ注入スヘシ

第九條 糞壺又ハ桶ノ破壊ニ依リ病毒滲漏ノ疑アルモノ及誤テ瀉下物ヲ溝渠下水等ニ混入シタル時ノ處置方法ハ虎列刺ノ部第廿五條第廿六條ヲ適用スヘシ

○實布埤利亞

凡ノ實布埤利亞ノ病毒ハ患者ノ痰唾及呼氣或ハ痰汁等皆之カ傳送物ヲ行フヘキモノトス其區別左ノ如シ

第一條 患者及看護人消毒法

第一條 患者治癒ノ後他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ自宅療養ノ看護人及死体者運搬人並ニ避病院ノ醫師看護人死体取扱人又ハ船中等ニテ患者ト同席シタル者等ノ他人ニ接スル時モ亦此法ニ從フヘシ

第二條 自宅患者ヲ往診セル醫師及患者ノ家人ニシテ患者ニ直接セザル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等其室ヲ出ルルハ必盥漱スヘシ

第三條 死體ハ醫師確認ノ後速ニ棺内ニ斂ムヘシ若シ濃厚石炭酸水(第一)ニ浸シタル綿ヲ以テ口鼻ヲ栓

第二條 死體及排泄物等消毒法

塞スルヲ得ハ最良トス但威ヘク火葬スヘシ

第四條 痰唾痰汁及此等ノ排泄物ニ汚穢セル綿布紙屑ノ類ハ稀薄石炭酸水ヲ灌キ盡或ハ桶ニ入レ戶外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付スヘシ

第五條 前條排泄物ハ豫定ノ場所ニ搬送シ焼却スヘシ若シ水分剩多ニシテ燒盡シ難キハ深ク埋却スヘシ

第三條 衣服臥具等消毒法

第六條 衣服臥具ノ甚シク汚穢シタルモノハ燒却スヘシト雖モ其汚穢スルヲ甚シカラサルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ注キ浸シ置クヲ廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ且洗滌シ日光ニ曝スヘシ或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ蒸蒸セシ後日光及大氣ニ曝スヘシ

第七條 此病毒ハ極テ頑強ニシテ善ク粗糲ナル物ニ附着スルカ故ニ最注意シテ下條ノ消毒法ヲ充分ニ行フヘシ

第四條 家屋、船舶等消毒法

家屋、船舶等消毒法

第八條 患者及死體ヲ置キタル病室ノ疊蓆類ハ之ヲ柱ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ窓戸ヲ密閉シテ六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薰シ然ル後窓戸ヲ開キ疊蓆壁障子等ニハ更ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ或ハ之ヲ以テ拭淨シ其他棚架及板敷等ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室屍室又ハ臨時避病院ニ假用セシ家屋又ハ船室等モ之ニ倣フヘシ但亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸スヘシ

第五 什具、運搬器等消毒法

第九條 病室ニ用ヒタル什具、飲食器及玩具等ノ甚シク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スヘシ其燒却スヘカラサルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ濯キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ヲ洗淨スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ濕潤ニ堆フヘキモノハ之ニ取ラス亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ニテ一時

間薰蒸スヘシ

第十條 患者ノ玩具セシ圖書書籍ノ類ハ之ヲ播展シ石炭酸蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薰蒸スヘシ

第十一條 患者及死體ヲ運搬セシ器具及醫術器械等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第二十條第廿三條ヲ適用スヘシ

○發疹室扶私

凡ソ發疹室扶私ノ病者及死者ノ身軀ヨリ發シテ衣服、臥具、器具ハ勿論居室ノ疊蓆屏障等ニ至ルマテ盡ク附着シ其病毒久シク潜匿スルモノナレハ病軀及死體ニ近接セルモノハ總テ病毒ト同視スヘシ消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヲ左ノ如シ

第一 患者及看護人等消毒法

第一條 患者及看護人等ノ消毒法ハ實布埤利亞ノ部第一條ヲ適用スヘシ

第二條 自宅患者ヲ往診セシ醫師及患者ノ家人ニシ

テ患者ニ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ成ヘク石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及手ヲ洗拭スヘシ

第二 死躰及排泄物等消毒法

第三條 死躰ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ成ヘク速ニ棺内ニ斂メ火葬スヘシ若シ止テ得ヌ埋葬スルハ擴穴ノ深サハ各地ノ燥濕高低ニ從ヒ凡ソ八尺以上一丈二尺以下タルヘシ

第四條 船舶航行中死者アリタルトキノ處置方法ハ虎刑刺ノ部第七條ヲ適用スヘシ

第五條 此病ハ必シモ排泄物ヨリ傳染セスト雖モ空氣ヲ汚スノ恐アルヲ以テ成ヘク速ニ之ヲ取除ケ病室内ニ留置スヘカラス

第三 服衣、臥具等消毒法

第六條 患者ノ久シク着シタル衣服、臥具ノ汚垢ニ染ミタル者又ハ死體ニ直接シタル臥具、避病院ニテ用

ヒタル臥具、蚊帳等ハ成ヘク燒却スルヲ良トス其燒却ヲ憚ルヘキモノニシテ洗濯スヘキハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置ク一廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルトキハ熱湯中ニ入レ一時間以上ニ煮沸スヘシ其洗濯スヘカラサルモノハ亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薰蒸スヘシ

第四 家屋、船舶等消毒法

第七條 家屋ノ消毒法ハ實布埤利亞ノ部第八條ヲ適用スヘシ但病室ハ不斷換氣法ニ注意スルモ亦多少消毒ノ効アルモノトス

第八條 船舶ノ消毒法ハ虎刑刺ノ部第十六條ヲ適用スヘシ

第九條 臨時假設ノ避病院ヲ取毀ツニ付テノ處置方法ハ虎刑刺ノ部第十八條ヲ適用スヘシ

第五 什具、運搬器等消毒法

第十條 什具、運搬器等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第二十條ヨリ第廿三條迄ヲ適用スヘシ

○痘瘡

凡ソ痘瘡ノ病毒ハ膿漿、痘疔、呼氣、津唾及死体ヨリ傳染シ又患者ノ衣服、臥具其他患者ニ接觸セシ器具及居室等ヨリモ傳染スルカ故ニ甚シク汚染セシモノハ成ヘク燒却スヘシ消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヲ左ノ如シ

第一 患者及看護人等消毒法

第一條 患者治癒落痂ノ後一週日ヲ經テ初テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必沐浴シ石鹼水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ自宅療養ノ看護人及患者運搬人並ニ避病院ノ醫師、死体取扱人又ハ船中等ニテ患者ト同席シタル者等ノ他人ニ接スル時モ亦此法ニ從フヘシ

第二條 自宅患者ヲ往診セル醫師及患者ノ家人ニシテ患者ニ直接セサル者、親戚朋友ノ一時見舞タル者

等ハ石鹼水或ハ醋水ニテ顔面及手ヲ洗フヘシ

第二 死體消毒法

第三條 死體ノ消毒法ハ發疹室扶私ノ部第三條ヲ適用スヘシ

第四條 船舶航行中死者アリタルトキノ處置方法ハ虎列刺ノ部第七條ヲ適用スヘシ

第三 衣服、臥具等消毒法

第五條 患者ニ係ル衣服、臥具等ノ消毒法ハ發疹室扶私ノ部第六條ヲ適用スヘシ

第六條 避病院ノ醫師、看護人及死體運搬人等ノ衣服ニ施スヘキ消毒法モ亦前條ニ同シ

第四 家屋、船舶等消毒法

第七條 家屋等ノ消毒法ハ實布埜利亞ノ部第八條ヲ適用スヘシ

但病室ハ不斷換氣法ニ注意スルモ亦多少消毒ノ効アルモノトス

第八條 船舶ノ消毒消ハ虎列刺ノ部第十六條ヲ適用

スヘシ
第九條 臨時假設ノ避病院ヲ取毀ツニ付テノ處置方
法ハ虎列刺ノ部第十八條ヲ適用スヘシ

第五 什具、運搬器等ノ消毒法
第十條 什具、運搬器等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第廿條
ヨリ第廿三條迄ヲ適用スヘシ

(參考)

傳染病豫防規則

○第三十四號布告 明治十三年七月九日

明治十二年八月第三十號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ
傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事
傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸窒扶私
赤痢、實布埜利亞、發疹窒扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ
但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルト
ハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スルモノハ速クモ二十
四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ通知スルヲ要
ス戸長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ

郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳(東京府下ハ府廳及ヒ警視
本署)ニ届出ヘシ十八年第二號布告ナリテ(衛生委
員)ヲ(戸長)ト改ム以下皆全シ
但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出
警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ケナシ

地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及治癒死亡ノ數ヲ內
務省ニ申報スヘシ十三年第五十四號布告
ナリテ本項ヲ增加ス

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認
ムルトハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ內務省ニ申報シ
且ツ其管内及ヒ隣接若シハ船舶交通ノ府縣最寄兵
營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ全上但書
刪除ス

第四條

全上
刪除

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院、製
作所等ニ於テ傳染病者アルト其主長ハ該地方官ト
協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルキハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得
但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ戶長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シノ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムヘシ
十五年第四十七號ヲ以テ病名貼付ノ儀ハ當分施行セサル旨ヲ布告ス
但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病
第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシム

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス
但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ廁圖、芥溜、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員ト

ナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得
此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備フル
病ヲ診斷スルルハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ十五年第四
十八號布告
ナシ本項
但書共追加

但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示
シ内務省ニ申牒スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場
等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓
延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサル様遮斷
シ得ヘキモノト見認ムルルハ地方官ヨリ内務卿ニ
稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得十
四年第五十八號布告
以テ第二項ヲ追加ス
但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ
得

腸室扶私病
第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及

ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第
十二條ヲ適用スヘシ

實布埤里亞病

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用
シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋
却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 發疹室扶私病者アルルハ第十條第十一條
ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四
條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ十三年第五十四號布告
以テ本條ヲ改正ス

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル
車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供
スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及

第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカ
ラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ
十五年
第十八號
布告ヲ以テ
全條改正

罰則

第二十二條 醫師戶長此規則ニ違背シタルハ五拾
圓以內ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背
シタルハ百圓以內ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルハ壹圓五拾
錢以內ノ科料ニ處ス

水車營業規則

○甲第一百號 明治十五年六月十六日

水車營業規則別紙ノ通り相定本年七月一日ヨリ施行
候條此旨布達候事

但從前布達達指令等別紙規則ニ抵觸スル者ハ總テ
消滅候儀ト可心得事
(別紙)

水車營業規則

第一條

水車營業ヲサントスルモノハ左ノ項目ヲ
詳記シ水路及近傍地景ヲ明瞭ニ縮寫シタル畫圖面
相添地元ハ勿論水路ニ沿フ上下町村戶長ノ與印ヲ
以テ郡役所へ願出テ免許ヲ受クヘシ

一 水車設置ノ町村名字番號

一 水路ノ字

一 車輪ノ寸法

一 揚碓又ハ粉挽臼ノ數

一 他ノ機關ニ用ニルモノハ其所ノ詳細

一 一年中稼ニアラサルモノハ其稼月數及事由

第二條

水車設置ノ場所ヲ移轉シ又ハ碓臼ノ數ヲ增
減シ(他ノ機關ニ用ユルモノ)稼月數ヲ伸縮セントスルモノハ
第一條ノ手續ヲ以テ郡役所へ願出免許ヲ受クヘシ
但場所移轉ノ外ハ畫圖面ヲ添ルニ及ハス

第三條

水車ヲ賣買讓與シタルトキハ賣買又ハ讓渡
人讓受人連署シ地元戶長ノ與印ヲ以テ郡役所へ届
出ヘシ

第四條 水車營業免許ヲ得テ起業スルモノト雖モ他ノ妨害ヲ生スルキハ取拂ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 水車ニ賦課スル地方税ハ營業稅雜種稅賦課規則ノ通リタルヘシ

第六條 第一條第二條ノ手續ヲ爲サスシテ水車ヲ新設シ又ハ移轉シ確白其他ヲ増減變更シタルモノハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘシ

(參考)

○甲第百三十八號 明治十五年十月四日

自用ノ水車ト雖モ新設移轉又ハ確白其他ヲ増減變更スルキハ都テ本年六月甲第百十號布達水車營業規則ノ通可相心得此旨相達候事

碁麴受賣規則

○縣令第四十一號 明治二十一年二月廿一日

碁麴受賣規則左ノ通相定ム

第一條 碁麴受賣ヲナサントスルモノハ左ノ條項ヲ遵守スヘシ

第二條 碁麴受賣者ハ左ノ雛形ニ倣ヒ標札ヲ調製シテ戶外ニ掲出スヘシ

木質適宜

寸法 堅三尺 横八寸

○碁麴受賣所 何縣何國何郡何町何村何 某

第三條 受賣者ハ買入帳及賣上帳ヲ調製シ左ノ件々ヲ記載スヘシ

第一 買入帳

此帳簿ニハ碁麴買入石數營業人ノ住所氏名年月日等遺漏ナク記載スヘシ

第二 賣上帳

此帳簿ニハ自用者ノ住所氏名年月日賣渡シタル碁麴ノ數量鑑札番號等遺漏ナク記載スヘシ

第四條 前條ニ記載シタル帳簿ハ毎年十月其區租稅

検査員派出所ニ差出シ検査ヲ受クヘシ

但検査ヲ受ケタル帳簿ハ營業中保存スヘシ
第五條 受賣者不在若クハ事故アルトキハ相當代理者ヲ定メ置クヘシ

第六條 自用者ハ醬麴ヲ販賣スルトキハ家用料酒製造免許鑑札ヲ認メタル上ニ非サレハ賣渡スルコトヲ許サス

第七條 醬麴受賣所ハ隨時主任官ヲシテ賣買ニ係ル帳簿及ヒ現在醬麴ノ石高營業場等ヲ検査セシメ時宜ニヨリ其他ノ場所ト雖モ點檢セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ受賣人若クハ代理者案内ヲナスヘシ

第八條 受賣者ニシテ第四條ニ記載シタル帳簿ノ登記ヲ怠リ又ハ詐偽ノ記載ヲナシタルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
自家用料酒免許鑑札ヲ檢セスシテ醬麴ヲ賣渡スヘカラサル禁令

○縣令第四十二號 明治二十一年二月廿二日
醬麴受賣人ニシテ自家用料酒製造免許鑑札ヲ點檢セス自用者ハ醬麴ヲ賣渡シタルモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

酒造營業者取締

○甲第五十九號 明治十六年五月三十一日

酒造營業者ニシテ左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘク候條此旨布達候事

- 一 酒醪ノ不用ニ屬シタルモノ全業者中賣買ヲナサントスル時検査ヲ受ケサル者(十七年甲第三十七號布達ヲ以テ改正)
- 二 検査ヲ經カル醪ヲ搾リタル者(二十一年縣令第四十九號ヲ以テ更正)
- 三 検査ヲ受ケスシテ二類酒三類酒ノ製造ニ用ユル元粕及ヒ酒類ヲ使用シタル者
- 四 造石検査ノ以前ニ於テ酒類ノ火入滓引等ヲ爲シタル者
- 五 酒類ノ粕瀝ヲ爲スル検査ヲ受ケスシテ着手シ又

ハ之ヲ搾リ揚ケ検査ヲ受ケヌシテ販賣自用贈與
等ニ供シタル者
六 検査未済ノ酒類ヲ覆ヘシ又ハ漏洩シタル等ノ片
直チニ届出サル者

米質改良組合取締規則

○縣令第二百四十七號 明治二十年十二月廿七日

米質改良組合取締規則左ノ通相定ム

米質改良組合取締規則

第一條 米質改良組合ハ縣下ニ於テ自ラ米穀ヲ作り
又ハ他人ヲシテ作ラシメ他ニ販賣スルモノ及米穀
ノ賣買ニ從事スルモノヲ以テ組織スヘシ
第二條 米穀ヲ販賣セサルモノト雖モ苟モ他ノ使用
ニ供スルモノハ渾テ前條ニ據リ組織シタル組合規
約ヲ遵守スヘシ

但本條違約者ハ該組合規約ノ定ムル所ニ據リ處
分スルヲ得(二十年縣令第百六號ヲ以テ改正
元第二條ヲ第三條ニ以下操下ケ)

第三條 米質改良組合ハ滋賀郡大津便宜ノ地ニ取締

所ヲ設ケ組合ニ係ル一切ノ事務ヲ總轄スヘシ
第四條 米質改良組合ハ縣下ヲ敷部ニ分チ各部ニ取

締所ノ出張所ヲ設ケテ取締所ノ事務ヲ分擔シ併チ
其部内限り設ケル所ノ規約ノ實施ヲ管理スヘシ

但各部ノ區域ハ郡役所々轄外ニ跨ルヲ得ス
第五條 組合ニハ相當ノ役員ヲ撰置シ縣廳ノ認可ヲ
受クヘシ

但時宜ニ依リ改撰ヲ命スルコトアルヘシ
第六條 組合役員ハ勸業委員其他同業者外ヨリ撰舉
スルヲ得

第七條 組合員ハ組合證票ヲ携帯スヘシ
第八條 組合ニ係ル費用ハ組合員之ヲ負擔スヘシ

但他人ノ地所ノミチ小作スルモノ及第二條ニ該
當スルモノハ此限りニ非ス(二十年縣令第百
六號ヲ以テ改正)

第九條 組合員ハ左ノ各項ニ從ヒ規約ヲ設ケ縣廳ノ
認可ヲ受クヘシ

一 米質及調製ノ改良ヲ圖ル事

- 一 俵裝ヲ完全ニシ樹入及樹ノ種類ヲ一定スル事
 - 一 現品ニ營業人ノ住所氏名ヲ記シタル證票ヲ添付スル事
 - 一 檢査方法ヲ定ムル事
 - 一 品質ノ眞否其他ニ依リ俵面ヘ一定ノ記號ヲ付スル事
 - 一 他府縣産ノ米穀取扱ノ方法ヲ定ムル事
 - 一 取締所及出張所ノ位置
 - 一 役員撰擧法及任期
 - 一 全上事務條項及權限
 - 一 諸費豫算及賦課方法
 - 一 會議ニ關スル規程
 - 一 違約者處分法
 - 一 前諸項ノ外組合ニ於テ必要トスル事項
- 第十條 前條ニ掲グル各項ノ事ニ關シ各部限リ必要トスル事項ハ其部内組合員ノ協議ヲ以テ規約ヲ定メ取締所ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但本條ニ據リ規約ノ認可ヲ受ケタルトキハ其規約書ヲ添ヘ所管郡役所ヘ届出ヘシ

- 第十一條 各出張所ノ事務ハ所管郡役所ニ於テ常ニ監督シ若シ異狀アルトキハ其時々具申スヘシ
- 第十二條 營業人ニシテ組合ヲ設ケス又ハ組合ニ加盟セサルモノハ違警罪トシ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘシ

附則

- 一 本則ニ據リ設定スヘキ組合及規約ハ來明治二十一年六月三十日限り取設ケ認可ヲ受クヘシ
- 一 前項組合及規約設定ノ爲メ每郡三名ノ委員ヲ撰擧シ同年五月三十一日迄ニ其住所姓名ヲ縣廳ヘ届出ヘシ
- 一 但滋賀郡大津市街ニ限リ本項定員ノ外更ニ米商人中ニ於テ三名ノ委員ヲ撰擧スヘシ
- 一 委員撰擧ノ事務ハ所管郡役所ニ於テ取扱フヘシ

一本則ハ同年米穀ノ收穫ヲ期トシ實施スルモノトス

蠶絲業組合規則

○甲第七十七號 明治十八年十二月廿一日
今般蠶絲業組合規則左ノ通相定メ來明治十九年二月
ヨリ實施候條此旨布達候事

但明治十七年本縣甲第百廿四號並同十八年甲第八
十九號布達ハ本文實施ノ日ヨリ廢止ス

蠶絲業組合規則

第一條

縣下ニ於テ蠶絲業養蠶製絲蠶種繭真
絲生皮等製斗糸等ニ從事スルモノハ製造
人ト賣買人トナ不問都テ此規則ニ準據スヘシ
但自用ノ爲メ製造スルモノハ此限ニアラス

第二條

蠶絲業者ハ最寄郡町村ニ於テ聯合組合ヲ設ケ其名稱
ハ滋賀縣下何郡何數町村聯合ノモノハ何郡東西南
北等ノ次第ヲ以テ區別スヘシ蠶絲業組合ト
稱スヘシ

第三條

組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受ク
可シ

第一項 繭ハ春夏秋冬若クハ黃白及種類(蠶子青熟赤
熟小石丸等)又

ハ大陽殺蒸殺燥殺等ヲ混淆シタルモノヲ賣買セ
サル事

第二項 製絲ニ最モ良好ナル種類ヲ育養スル事

第三項 桑樹ノ栽培蠶兒ノ養法ヲ全頁ナラシムル
事

第四項 繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル事

第五項 繭ヲ荷造シテ他ニ轉出スル時ハ其組合ノ
名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル
標章ヲ付シ賣買スル事

第六項 生絲真綿ノ製造及結束其他生皮苧罽斗絲
等ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買セサル事

第七項 生絲真綿等ノ結束用品及裝束方ヲ一様ナ
ラシムル事

第八項 全上結束用品ニ擦紙元結麻等ヲ用フルモ

ノハ賣買上歩引ノ量目ハ二分五厘以内ヲ定ムル事
第九項 綾取アル揚簀ヲ用ヒ且ツ寸法總ノ目量ヲ一定ナラシムル事
第十項 一梱一總若クハ一把中良否混淆ハ勿論他物又ハ鼠喰汚糸等ノ惡品ヲ藏蔽シタル不正ノ品ヲ賣買製造セサル事
第十一項 第八項ノ結束用品ニハ記號若クハ住所姓名ヲ印シ其自己ノ製品タルヲ徵スルニ足ルノ方法ヲ設クル事
第十二項 提造島田造折返等ノ生絲ヲ揚返サスシテ其儘改造賣買セサル事
第十三項 生糸改良ノ方法及海外輸出絲ノ統合検査手續並ニ其手數料ヲ定ムル事
第十四項 生絲ヲ荷造シ他ニ輸出スルハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記シタル標章ヲ付シ賣買スル事
第十五項 蠶種及其出殼繭ヲ併セテ検査スルノ方

法ヲ設クル事

第十六項 蠶病ヲ豫防スルノ方法ヲ設クル事
第十七項 連接繭ヲ蠶種用ニ供セサル事
第十八項 蠶種ニハ必春夏秋冬ノ區別並ニ其種類組合ノ名稱製造人販賣人ノ住所姓名其他良否ノ検査ヲ記印シ又ハ保證票ヲ貼付スル事
第十九項 同上量目及其用紙ヲ一定スル事
第二十項 粗惡ノ蠶種ヲ製造賣買セサル事
第二十一項 工男女取締ニ關スル事
第二十二項 違約者及違約品處分方法ノ事
第二十三項 會議ニ關スル規定ノ事
第二十四項 收支豫算及賦課方法ノ事
第二十五項 役員ノ撰擧法及權限並ニ處務順序ノ事
第二十六項 前各項ノ外組合中ニ於テ必要トスル事項
第四條
組合員ハ製造人ト賣買人トヲ不問必其組合ノ証票ヲ携帶スヘシ

但証票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第五條

賣買ニ從事スルモノハ前條組合証票ノ外別ニ商業証票ヲ携帯スヘシ

第六條

縣下便宜ノ地ニ取締所一ヶ所ヲ設ケ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監査スヘシ

第七條

組合ニハ委員取締所ニハ頭取々締ヲ撰舉シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ若シ本縣ニ於テ不適任ト見認メタル場合ニハ更ニ改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第八條

取締所ニ於テハ全業者中ヨリ製絲製種ノ検査役ヲ撰定シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第九條

但時宜ニヨリ本縣ニ於テ撰定スルコトモアルヘシ
組合委員並ニ取締所役員ハ勸業委員其他全業者外ヨ

リ撰舉スルヲ得ヘシ

第十條

組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ検査スヘシ

第十一條

各府縣蠶絲業組合取締所ト協議ノ上便宜ノ地ニ蠶絲組合中央部ヲ設ケ彼是ノ氣脈ヲ通スヘシ

第十二條

組合及取締所ニ關スル費用ハ各組合員ノ集議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條

蠶絲業者ニシテ組合ヲ設ケヌ又ハ組合ニ加盟セサル者ハ違警罪トシテ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘシ

織物業取締規則

○甲第百八十五號 明治十八年十二月廿六日

織物業取締規則別紙ノ通相定來明治十九年三月一日ヨリ實施候條此旨布達候事

(別紙)

織物業取締規則

(十九年二月二十六日甲第二十六號布達ヲ以テ第一條改正)

第一條 織物業ヲ分テ左ノ四種トス

第一種 縮緬及絹縮

第二種 麻布

第三種 蚊帳

第四種 木綿縮

第二條 縣下ニ於テ前條織物業ニ従事スル者ハ製造人ト賣買人トナ問ハス都テ此規則ニ準據スヘシ但自用ノミニ供スル者ハ此限ニアラス

第三條 營業人ハ一種毎ニ一ノ組合ヲ設ケ左ノ各項ニ據リ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ改正増補ノ時亦同シ

第一、織物ノ尺幅及織付歩引耳糸等其種類ニ應シ一定シ且ツ織留ノ証ヲ設クル事
第二、織物ノ元料ヲ精撰シ不正若クハ粗惡品ヲ用

ナル事

第三、染色ヲ改良シ不正若クハ染惡ナル染料ヲ用

ヒサル事

第四、製品ニ製造人ノ住所姓名及品質等ヲ詳記シ

タル証票ヲ貼付シ且ツ検査ノ方法ヲ設クル事

第五、製造人ト賣買人及傭主ト職工ノ關係ヲ一定スル事

第六、違約者處分法及職工獎勵ニ關スル事

第七、諸費豫算及徵收方法ノ事

第八、諸役員ノ事務條項及權限

第九、諸役員ノ給料及旅費等ノ定額

第十、前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 各種組合ニハ一種毎ニ取締所一ヶ所ヲ設ケ

組合ニ係ル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第五條 取締所ニハ同業者ノ投票ヲ以テ相當ノ役員

ヲ撰置シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但時宜ニ依リ改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第六條 取締所ノ役員ハ勸業委員其他同業者ヨリ撰

同業組合準則

舉スルヲ得ヘシ

第七條 各組合員ハ其組合ノ証票ヲ携帯スヘシ
但証票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第八條 各組合取締所ハ毎年一月中其前年分ノ事蹟
及費用決算表ヲ縣廳ヘ報告スヘシ

第九條 營業人ニシテ組合ヲ設ケス又ハ組合ニ加盟
セサル者ハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ
處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
ヘシ

同業組合準則

○甲第四百十號 明治十七年十二月九日

營業上福利ヲ増進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スル爲メ同業
者組合ヲ結ビ規約ヲ定ムル者ハ自今別紙同業組合準
則ニ可準此旨布達候事

(別紙)

同業組合準則

第一條 農工商ノ業ニ従事スル者ニシテ同業者或ハ

其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスル
時ハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以
上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利
益ヲ圖ルヲ以テ目的トナスヘシ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及ヒ組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ撰擧法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及ヒ退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事

第四條 組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業
ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ

但事業ノ模様及ヒ趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ
難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルルハ縣廳ノ
認定ヲ請フヘシ
第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業
ヲナスコトヲ得ス
第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年
縣廳ニ報告スヘシ
第七條 規約ヲ改正スルルハ更ニ認可ヲ受クヘシ
第八條 分立又ハ合併スルルハ更ニ規約ヲ作り認可
ヲ受クヘシ
第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り
認可ヲ受クヘシ
但其聯合ニ府縣以上ニ涉ルルハ開會地管轄廳ヲ
經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ
(十九年三月甲第三十八號布達ヲ以テ追加)
第十條 組合員ハ組合ノ捺印ヲ押捺シテ業名票ヲ店
頭ニ掲クヘシ

市場取締規則

○甲第三號 明治十九年一月二十八日
市場取締規則別紙ノ通相定候條從來開設致尙繼續セ
ントスルモノハ來ル二月二十八日迄ニ夫々決定ノ上
本廳ヘ可申出此旨布達候事
但明治十五年一月本縣甲第十五號第三條第一項及全
年全甲第十六號布達ハ廢止候事

(別紙)

市場取締規則

第一條 市場ヲ分テ左ノ三種トナス
第一種 常ニ時日及場所ヲ定メ賣買主ノ中間ニ立
テ物品ノ競賣ヲナスモノ
第二種 常ニ時日及場所ヲ定メ物品ノ出賣ヲ爲ス
モノ
第三種 臨時前二種ノ市場ヲ開設スルモノ
但營業ニアラル自家ノ物品ヲ一時競賣スル
モノハ此限ニアラス

第二條 第一種ノ市場ヲ開設セントスルモノハ左ノ
 各項ニ據リ規程ヲ定メ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ
 一 賣品ノ種類及取扱手續
 一 開市ノ日時並ニ市場ノ位置
 一 物品受渡順序
 一 口錢其他手数料等ノ定額
 一 賣上金ノ収入及荷主ヘ勘定ノ手續
 一 前各項ノ外市場ニ關スル規程
 第三條 第二種ノ市場ヲ開設セントスルモノハ前條
 第一項第二項第四項(若シ之アラハ)第六項ニ據リ規
 程ヲ定メ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ
 第四條 第三種ノ市場ヲ開設セントスルモノハ其位
 置及開市ノ時日並賣品ノ種類等ヲ詳記シタル書面
 ヲ以テ所管警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ
 第五條 第一種及第二種ノ市場開設ノ許可ヲ得タル
 時ハ其旨所管警察署ヘ届出ヘシ
 第六條 同町村及隣接町村ニ於テ同性質ノ市場ヲ開

設スルモノニシテ營業上保護ニ必要ト認ムルトキ
 ハ特ニ免許區域ヲ指定シ又ハ雙方ヘ規約ノ締結ヲ
 命スルコトアルヘシ若シ其命ヲ拒ミ又ハ遷延スル
 トキハ其一方若クハ雙方ノ市場ヲ停止スヘシ(二十年
 二百四十九號
 縣令第
 二以テ改正)

第七條 第二種ノ市場開設スルニ多人數組合若クハ
 數町村相合スル時ハ相當ノ役員ヲ定メ市場ニ關ス
 ル取締ノ責ニ任セシメ且其住所姓名ハ縣廳及所管
 警察署ヘ届出ヘシ
 第八條 第一種ノ市場ヲ開設スルモノハ毎年一月中
 其前年分市場ノ景況及賣上金高口錢手数料等ノ明
 細表ヲ製シ縣廳ヘ報告スヘシ
 第九條 此規則第二條第三條第四條第五條ニ違背シ
 タルモノハ違警罪トシ一日以上三日以下ノ拘留ニ
 處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處
 スヘシ

陸上用蒸氣機關檢査規則

○縣令第二百十五號 明治二十年十一月一日

陸上用蒸氣機關檢査規則左ノ通相定ム

但從來蒸氣機ヲ使用スル諸工場其他ハ本則第一條ニ準シ來明治二十一年三月三十一日迄ニ願出ツヘシ

陸上用蒸氣機關檢査規則

第一條 諸工場其他ニ於テ蒸氣機關ヲ使用セントス

ルモノハ使用前本則第一號書式ニ據リタル願書ニ

四隣接續^{構外四方三}家主ノ承諾書ヲ添ヘ檢査ヲ願出ヘシ

但明治十九年^{十月}十二月十二日縣令甲第五十二號家屋建築規

則施行區域外ニ係ルトキハ工場ノ構造方法ヲ詳

記シタル圖面ヲ添付スヘシ

第二條 檢査ノ上危險ト認ムルトキハ修繕又ハ改造

ヲ命ス

第三條 前條ノ場合ニ於テハ速ニ修繕又ハ改造ヲ爲

シ更ニ檢査ヲ受クヘシ

第四條 每蒸氣罐ニハ火床面積一平方呎ニ付二分ノ一

平方呎ノ割合ヲ以テ二個ノ安全瓣ヲ備ヘ内一個ハ

鎖鑰ヲ設クヘシ

第五條 安全瓣ノ鎖鑰コハ檢査済ノ上檢査官ニ於テ

封鎖シ私ニ開閉スルコトヲ禁ス

第六條 罐檢査ノ上檢定シタル最大蒸力ヲ增加ス

ルコトヲ禁ス

第七條 新ニ蒸氣罐ヲ増設セントスル者ハ本則第一條

ニ隨ヒ又機械蒸氣罐ノ要部ヲ修理若シハ改造セント

スルトキハ直ニ届出檢査ヲ受クヘシ出來ノ上モ亦

全シ

第八條 定期檢査トシテ毎年三四兩月間ニ檢査官ヲ

派シ檢査ヲ執行ス其檢査済ノモノハ本則第二號離

形ノ檢査假證書ヲ下附シ追テ第三號離形本證書ト

引換交附スヘシ

第九條 臨時檢査トシテ檢査官ヲシテ臨時巡視セシ

ムルコトアルヘシ此際檢査官ニ於テ蒸氣機ニ危險ノ掛

念アリト見認ムルトキハ其使用ヲ中止シ審査ノ上

修理等ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 本則第三條及第七條后段ノ場合ニ於テ檢査
 濟ノ上已ニ下付シタル檢査證書面ニ變更ヲ生シタ
 ルトキハ本則第八條后段ノ手續ヲ爲シ其變更セサ
 ルモノハ證書裏面ヘ檢査官ニ於テ其事故ヲ記載シ
 檢印ノ上之ヲ交付スヘシ

第十一條 檢査證書ハ諸人ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ
 第十二條 瀛機瀛罐ノ事ニ從ハシムル主任者ハ其族
 籍姓名及履歷ヲ詳記シタル書面ヲ以テ本廳ヘ願出
 認可ヲ受クヘシ雇換ノ都度亦全シ

第十三條 廢業轉居其他身分ニ異動アルトキ及ヒ瀛
 機瀛罐ニ異狀アルトキハ直ニ届出ヘシ

第十四條 本則第一條第三條第五條第六條第七條第
 十一條第十二條第十三條ニ違背シタルモノハ三日
 以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾
 五錢以下ノ科料ニ處スヘシ

(第一號書式) 蒸瀛機關檢査願

- 一 工場(其他)名稱及種類
 - 一 所有主
 - 一 瀛罐ノ種類及員數
 - 一 最大瀛力
 - 一 機械ノ種類及員數
 - 一 公稱馬力
 - 一 瀛機製造年月
 - 一 瀛機製造所(人)名
- 右者今般新設營業致度候間何月何日御出張ノ上御
 檢査被成下度願上候也

年月日 所有主 氏 名印
 縣知事宛
 (第二號雛形) 六寸

番 號	工場所 在地名
證書有 効期限	所 氏 主 名

右檢査ノ上此假證書ヲ附與スルモノ也	滋賀縣	官	氏	名
種瀛	馬公	類機	稱	力
種瀛	馬公	類機	稱	力
類機	稱	力		
類機	稱	力		

(第三號雛形)

六寸

右檢査ノ上本書期限中使 用ニ適當ナルノ報告ヲ得ルニ依 リ此證書ヲ附與スルモノ也	滋賀縣	官	氏	名
種瀛	馬公	類機	稱	力
種瀛	馬公	類機	稱	力
類機	稱	力		
類機	稱	力		
番號	工場所 在地名	氏所 名主	馬公 稱力	最 大
幼期限	氏所 名主	馬公 稱力	馬公 稱力	最 大
種瀛	馬公	類機	稱	力
種瀛	馬公	類機	稱	力

旅客和船取締規則

○甲第三十六號 明治十八年三月十一日
 旅客和船取締規則別冊ノ通相定メ來ル四月十五日ヨ
 リ實施候條此旨布達候事
 但從前營業者ニシテ引續營業セントスル者ハ本文
 日限マテニ願出免許ヲ受クヘシ

(別冊)

旅客和船取締規則

第一條 湖上ニ於テ和船ヲ以テ旅客ヲ乘載シ渡航ヲ
 營業スルハ從來早船ト稱スル甲板ヲ備フル船ニシ
 テ舳艫間三間以上ノモノニ限ルヘシ
 但近傍小渡ニシテ特ニ許可ヲ得タルモノハ此限
 ニアラス

第二條 前條早船營業ヲ爲サントスル者ハ其船名船
 体及ヒ附屬品並ニ乗組人員發着寄港等ヲ詳記シタ
 ル書面ニ戸長ノ奥印ヲ受ケ其定繫港所轄ノ警察署
 へ願出免許ヲ受クヘシ
 但結社營業ヲ爲サントスル者ハ先ツ其目的及ヒ

旅客和船取締規則

資本募集等ノ方法ヲ詳記シタル願書ヲ以テ所轄郡役所ヲ經由シ本縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

(十八年五月甲第六十二號達ニテ改正)

第三條 早船ハ船体堅牢ニシテ所轄警察署ノ免許証ヲ受ケ平常燈船號角豫備ノ艦檣其他相當ノ附屬品ヲ整備シタルモノニアラサレハ運航スルコトヲ得ス但免許証ハ客室ノ見易キ別ニ釘付スヘシ

第四條 早船ハ舳梁ヨリ艦梁迄ノ間面積三坪未満ハ機四挺水夫五人ヲ備フヘシ三坪以上一坪ヲ増ス毎ニ機一挺水夫一人ヲ増スヘシ但水夫ハ強壯ニシテ實業ニ耐ユル者ニ限ルヘシ

(十八年五月甲第六十二號達ニテ改正)

第五條 早船ハ舳梁ヨリ艦梁マテノ間ニ於テ適宜客室ヲ設ケ判然荷室ト區域ヲ立テ一坪(六尺四方)ニ乗客八人ヨリ超過スヘカラス但客室外へ客ヲ乗セ又ハ客室内へ荷物ヲ載スヘカラス

第六條 早船ヲ用ヒス近傍小渡船營業ヲ爲サントスル者ハ其船体乗組人員及ヒ發着港等ヲ詳記シタル書面ニ戶長ノ奥印ヲ受ケ其定繫港所轄ノ警察署へ願出免許ヲ受クヘシ但免許証ハ船中見易キ所ニ釘付スヘシ

(十八年五月甲第六十二號達ニテ改正)

第七條 前條小渡船乗客人員ハ舳梁ヨリ艦梁マテノ間面積一坪(六尺四方)八人ヨリ超過スヘカラス第八條 早船及ヒ小渡船ノ賃錢ハ最寄同業者ニ於テ協議ノ上相定メ所轄警察署へ届出ヘシ變更シタルモ亦全シ

第九條 早船及ヒ小渡船營業者免許証ヲ毀失シ其他免許証ニ列記シタル條件ニ異動ヲ生シタルモ所轄警察署へ届出訂正又ハ再渡ヲ請ヒ廢業ノ節ハ其旨届出免許証返納スヘシ

第十條 乗客及ヒ物貨ヲ取扱フニハ懇切ヲ旨トシ若

シ渡航中異變アルハ最寄警察署又ハ分署交番所
若シハ巡行警察官へ申出指揮ヲ受クヘシ此場合ニ
於テハ成ルヘシ乗客及ヒ物貨ノ上陸ヲ止メ置クヘシ
但難破ノ節ハ難破船規則ニ從フヘシ
第十一條 渡湖中他船ト速力ヲ競争シ其他危險ノ所
爲チ爲スヘカラサルハ勿論暴風等ノ節ハ運航ヲ爲
スヘカラス

(十八年五月甲第六十二號達ニテ改正)

第十二條 強テ乗船ヲ勸メ又ハ乗客ニ對シ定價以上
ノ賃金ヲ請求シ或ハ客引ヲ出シ若クハ人力車夫等
ト申合其他種々ノ手段ヲ以テ乗客ヲ誘引スルヲ
禁ス

(全上改正)

第十三條 早船營業者ニシテ運送問屋旅籠屋等へ手
數料等ヲ付與スルヲアルモ運賃定額ノ壹割ヨリ超
過スルヲ得ス
第十四條 警察官ハ時々船体其他附屬品等ヲ檢査シ

船体ニ破損所アルカ又ハ本則ニ違背シタル廉アル
ハ時宜ニ依リ臨時運航ヲ停止スルヲアルヘシ

(全上改正)

第十五條 官許ヲ得ス營業シ又ハ停止中私ニ運航シ
若クハ此規則第三條第四條第五條第七條第八條第
九條第十一條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ
違警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹
圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處スヘシ
第十六條 前條違警罪ノ處分ニ付シタルモノ其他不
正ノ所爲アルハ其情狀ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ
營業ヲ停止シ又ハ禁止スルヲアルヘシ

湖上漁船取締規則

○甲第百五號 明治十八年七月一日

明治十七年二月本縣甲第二十一號布達湖上漁船取締規
則別冊ノ通改定候條此旨布達候事
但現今存在セル漁船船体ハ追テ改造ノ期ニ至リ規
則第二條ノ造船法規ニ據リ改造可致候事

(別冊)

汽船取締規則

- 第一條 湖上ニ於テ汽船ヲ以テ旅客物貨ノ運送ヲ營業セントスル者ハ本縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ但シ結社營業セントスルモノハ社則ヲ添フヘシ
- 第二條 汽船ヲ新造セントスルキハ本縣造船法規ニ據リ調製シタル船体仕様帳ニ明細ナル圖面及ヒ汽罐汽機明細書ヲ添ヘ本縣廳ヘ願出許可ヲ受ケ竣工ノ上ハ本則第一號書式ニ照シ届出檢査ヲ請フヘシ但シ造船法規ハ警察本署ニ就キ閱覽スヘシ
- 第三條 造船工事中ハ時々檢査員ヲ差遣シ檢査セシメ若シ造船法規ニ照シ不完全ト見認ルキハ改造ヲ命シ又ハ新造許可ノ指令ヲ取消スルアルヘシ
- 第四條 汽船ハ左ニ記列スル端艇其他所屬品ヲ整備スルニアラサレハ航行スルコトヲ許サス
- 第五條 端艇ハ本則第二號表ニ適シ相當所屬品ヲ全備スルモノ

- 第三條 端艇ハ本則第三號表ニ適シタルモノ
- 第四條 舷ハ其取付堅牢ニシテ豫備ノ轉舵索ヲ船尾ニ備ヘタルモノ
- 第五條 羅盤壹個救命浮子二個以上但シ救命浮子ハ善良ニシテ廿四時間三十二磅ノ浮力アルモノ
- 第六條 相當ノ消防器具
- 第七條 汚水唧筒壹個以上
- 第八條 汽罐及ヒ機關ニ屬スル相當ノ附屬品及ヒ豫備品
- 第九條 安全瓣ハ每罐火床面積ノ壹平方呎毎ニ貳分ノ一平方吋ノモノ二個ヲ備ヘ平生用ユル汽力ニ對シ錘量ヲ定メ内壹個ハ外套并ニ鎖鑰ヲ備ヘタルモノ
- 第十條 安全瓣ハ其封鎖シタルト否トテ問ハス凡テ機關室ヨリ開キ得ヘキ裝置ヲ設ケ且ツ廢汽管ノ設ケアルモノ

但シ安全辦ノ發條ハ試驗適合ノモノニ限ルヘシ
第五條 船體又ハ汽機汽罐其他要部ノ修理若シクハ
變更ヲ爲サントスルルハ其箇所及ヒ破損ノ模様等
詳細届出着手シ竣工ノ上ハ更ニ届出檢査ヲ受クヘシ
但シ修繕工事中ハ臨時檢査員ヲ差遣シ檢査セシ
ムルコトアルヘシ

第六條 定期檢査ヲ請フモノハ遅クモ期限前二十日
以內ニ本則第四號書式ニ照シ本縣廳ヘ願出ヘシ檢
査ニ就テノ準備ハ前以テ相達スヘシ

第七條 定期又ハ新造檢査ノ節ハ船主船長機關手等
ヲ立會シテ相當檢査ノ上故障ナキモノハ安全辦外
套ニ封鎖シ本則第五號假檢査證書ヲ下附シ追テ第
六號檢査證書ト引換ヘ交付スヘシ

第八條 定期檢査ノ外必要ト見認ル場合ニ於テハ臨
時檢査員ヲシテ檢査ヲ爲サシメ船体汽機等ニ故障
アリト見認ルルハ運航ヲ停止シ修繕ヲ命スルコトアル
ヘシ

第九條 乘客ノ定員ハ船室ノ等級ニ據リ左ノ割合ヲ
以テ定ムヘシ

但シ乘客ノ制限ハ本則第七號離形ノ木票ヲ製シ
本縣廳ノ捺印ヲ受ケ船内各室ニ掲クヘシ

上等室	壹坪ニ付	(六尺)	大人四人
中等室	壹坪ニ付	(全)	大人六人
下等室	壹坪ニ付	(全)	大人十人
上甲板	上ニ雨覆ヲ設ケ下等室ニ充ツルモノ		
壹坪ニ付	(六尺)		大人六人

小船	ニシテ中等室ノ設ケナキモノ		
上等室	壹坪ニ付	(六尺)	大人六人
下等室	壹坪ニ付	(全)	大人十人
全上甲板	上ニ雨覆ヲ設ケ下等室ニ充ツルモノ		
壹坪ニ付	(六尺)		大人六人

第十條 各船ノ水脚ハ必ス載貨線ヨリ超ユヘカラス
第十一條 船内ニ於テ石炭油其他揮發性ノ油ヲ用ユ
ヘカラス

但シ船体凧機ニ必用ナル「テレビン」油ノ類ハ此限ニアラス

第十二條 航湖中他船ト先進競争シ或ハ私ニ安全辦ノ封緘ヲ開閉スルヲ禁ス

第十三條 運航中他船ト衝突シ或ハ暗礁ニ乗掛ケ其他船体凧機等ニ破損ヲ生スル等ノ異變アルトモ着港ノ上船長ヨリ其實情ヲ最寄警察署又ハ分署ヘ届出尙ホ速ニ其景況ヲ詳記シタル書面ヲ以テ本縣廳ヘ届出ヘシ

但シ難破ノ節ハ明治八年第六十六號布告内國船難破及漂流物取扱規則ニ據ルヘシ

第十四條 各船出發時間及ヒ乗客物貨ノ運賃並ニ船長機關手ノ氏名及ヒ免狀ノ種類等ハ豫テ本縣廳ヘ届出置變更シタルトモ同様届出ヘシ

第十五條 客引ヲ出シ又ハ人力車夫等ト馴合ヒ其他種々ノ手段ヲ以テ乗客ヲ誘引スルヲ禁ス

第十六條 運送問屋旅籠屋等ヘ手数料ヲ附與スルヲ

アルモ運賃定額ノ一割ヨリ超過スヘカラス

(十八年十二月甲第百六十八號達ニテ改正)

第十七條 凧船乗客ノ住所氏名身分職業年齢等ハ帳簿ニ詳記シ置キ着港ノ際船長ヨリ其寫ヲ以テ該地警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ若シ航湖中乗客物貨等ニ不審ト認ムル者アルカ又ハ紛失品アルトモ可成乗客物貨ノ上陸ヲ見合セテ該地警察官吏ノ指揮ヲ受クヘシ

但乗客人名ノ記載方ニ付官吏ハ官氏名兵隊ハ隊名氏名隊伍ヲシタルトモ其引奉スル上官ノ氏名外何名ト記スヘシ尤モ乗客人名簿ハ一年間保存スヘシ

第十八條 開廢業及ヒ造船廢船等ノ願書ニハ定繫港戶長ノ奥印ヲ受クヘシ

第十九條 官許ヲ得スルテ營業又ハ造船シ及ヒ本則第四條第拾條第拾壹條第拾貳條第拾參條第拾四條第拾五條第拾六條第拾七條ニ違背シタルモノハ違

警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓
 以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ尙ホ情狀ニ據
 リ行政ノ處分ヲ以テ一ケ年以内其船ノ運航又ハ營
 業ヲ停止スルコアルヘシ
 第廿條 運航及ヒ營業上ニ就テハ何人ノ所爲ト雖モ
 船主又ハ船長其責ニ任スヘシ
 第一號

新造漁船出來檢査願

漁船 何々丸

右者豫テ御許可ヲ得造船竣工候ニ付何月何日何地
 ニ於テ出來形御檢査被成下度就テハ右御檢査濟ノ
 上ハ豫テ上願ノ通り何地何港ノ間運航營業致度此
 段願上候也

年月日

滋賀縣令何某殿

(定繫港戶長與印)

船主 何 某印
 船長 何 某印

端 艇 表 (第二號)

登簿噸數	數	長	幅	深	容
二百四十噸ヨリ	第一	一四、五、〇	二、二		九一、〇
	第二	二〇、五、五	二、七		一四五、二
百二十噸迄	二隻	物	積		二三六、二
百二十噸ヨリ	一隻	一、四、五、〇	二、二		九一、〇

(第三號)

錨 及 錨

噸數	錨ノ量	挽錨	錨	挽索	周
大錨	合量	第一小錨	長	長周圍	大各長九十尋
五〇二二	七八四	八四	一三〇	七五	
七五二二	九五二	一四〇	一二〇	七五	
一〇〇二二	一六〇	八四	一三五	七五	
一二五二二	二八八	一六八	一六五	七五	

表 鎖

一五〇二二	七二八	二二四	一一二	一六五	七五六	四
一七五三二	八二二	二五二	一一二	一六五	七五六	四
二〇〇三二	九二四	二八〇	一四〇	一六五	七五六	四
二五〇三二	一一二〇	四二〇	一九六	一九五	七五七	五

本表ノ噸數ハ漁船ハ總噸數ノ三分ノ二ヲ取ルヘシ且其五十噸未滿
ハ本表ノ比例ニ據リ本船相當ノ鎖鎖ヲ備フヘシ

(第四號)

漁船何丸第何回御檢査願

- 一本船々主氏名若シハ會社ノ名
- 一定繫場
- 一航路
- 一登簿噸數
- 一公稱馬力
- 一前期檢査ノ場所
- 一前期檢査證書有効期限 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄
- 一前期入渠又ハ陸上ケ檢査年月日
- 一前回漁船水壓試驗年月日

右ノ漁船當時何港碇泊若シハ入渠(陸上ケ)中ニシテ
檢査ノ用意相調候ニ付何年何月何日御出張御檢査
被成下度此段奉願上候也

年 月 日 船主若シハ船長 氏 名印
滋賀縣令何某殿

第 五 查 檢 船 船

番號	船名	船主名	航路	公稱馬力	漁機種類	漁船種類	漁歴
檢地	噸數簿	定繫場	證限書	上旅客	中旅客	下旅客	品所屬

號

第

六 號

假 證 書

前記ノ船舶明治何年何月何日檢査ノ上記載ノ航路
 航通ニ適當ナルヲ以テ此檢査證書ヲ附與スル者也
 但此證書ハ本文記載ノ月日ヨリ三箇月限り無効
 タルヘシ
 船體檢査主任 滋賀縣船舶檢査員
 明治年月日 何 某 印
 機關部檢査主任 滋賀縣船舶檢査員
 何 某 印

船 舶 檢

番號	船名	船主名	航路	馬力	種類	檢地	噸數	定緊	期證	上旅	中旅
										等客	等客

查 證 書

前記ノ船舶明治何年何月何日檢査ノ上記載ノ航路
 航通ニ適當ナルノ報告ヲ得ルニ依リ西洋形船舶檢
 査規則ニ遵ヒ此證書ヲ附與スル者也
 明治年月日 滋賀縣 印

(第七號) 雛形

下等之分

用材檜 堅二尺五寸 厚サ適宜

中等之分

面積三分ノ二 但シ曲尺

上等之分

面積四分ノ一

縣名 烙印
 何々丸 何等室
 乘客 何人 限

○甲第百六十九號 明治十八年十二月十二日
今般本縣甲第百六十八號布達湖上漁船取締規則第十
七條改正ニ付乘客ノ人名等記載スヘキ儀ハ當分大津
鹽津間及大津長濱間通航ノ漁船ニ限り施行候條此旨
布達候事

但本文ノ外通航ノ漁船ト雖_レ臨時警察官吏ノ指揮
ニ依リ施行セシムル儀モ可有之事

(參考)

○明治十四年十月甲第百六十二號

湖上ニ於テ旅客ノ乗航ヲ營業トナス漁船ノ儀ハ自今
左ノ通り可相心得此旨布達候事

但從前航行致來候漁船ニテ左項ニ抵觸スルモノハ
爾後一ケ年以内ニ改正可致事

一 甲板最大ノ長サ六十尺曲尺以下同之未滿ノモノ

右今濱崎堅田浦以北ニ航スルヲ得ス

一同九十尺未滿ノモノ
右伊崎勝野以北ニ航スルヲ得ス

但伊崎勝野以北ト雖_レ松原長濱間及ヒ松原鹽
津間ヲ長濱ヲ經テ往返スル小渡ニ限り同長サ
七十二尺以上ノモノヲ以テ渡航候義ハ苦シカ
ラス

一 龍骨ノ長サ六十尺未滿ノモノニシテ前兩項制限外
ノ地ニ於テ定期ノ通航ニ非ラスシテ湖邊ノ遊覽其
他一時限リノ通航及ヒ内湖ト稱スル區域内ヲ限リ
通航營業セントスル者ハ其時々願出許可ヲ受クヘ
シ(明治二十一年五月縣令
第九十二號ヲ以テ追加)

湖川漁魚採藻泥取締規則

○縣令第十六號 明治二十一年一月廿日

明治十七年九月本縣甲第九十七號布達湖川漁魚採藻泥
取締規則左ノ通改定ス

但明治十七年九月甲第百號布達ヲ除クノ外從前ノ布
達々及指令等此規則ニ抵觸スルモノハ渾テ消滅ト
ス

湖川漁魚採藻泥取締規則

湖川漁魚採藻泥取締規則

第一條 管内湖川ニ於テ漁魚採藻泥ヲナサントスル
モノハ都テ此規則ニ遵フヘシ

第二條 湖川ニ聯絡セサル民有水面ハ此限リニ非ス
第三條 湖川漁魚採藻泥ノ業ヲ分ツテ二類トス

第一類

第一類 網 釣 釣 流シ 簀 張リ 網 漬柴 石漬

第二類

大 網 中 網 紗 網 モロコ 網 流シ 網
カナ 網 岩付 網 葎 卷 網 胴引 網 根摺 網
小 絲 網 竹筒 網 流シ 釣 漁 蜆 取 漁 貝 曳 漁
四ツ手 網 コブリ 網 採藻 泥 竿 釣 漁 鱒 漁
サテ 網 投 網 タツベ 漁 一名 モンドリ 漁 鮎 掛
鹹 掛 打 網 押 網 搔 網 稻 漁

第三條 免許期限ヲ定ムル左ノ如シ

一 第一類 漬柴 石漬 及 第二類 ノ 各業 ハ 一ケ年 (自甲午年
三月三十一日以前 自乙未年
三月三十一日以前) 限リ 免許 スヘシ
二 第一類 網 釣 釣 流シ 簀 張リ 網 ハ 前 自一月前 自七月二
至六月前 自十二月二

期ニ分テ免許スヘシ

第四條 前條第一項 漬柴 石漬 ノ 免許ヲ得ントスルモ
ノハ三月(廿一年縣令第七十
三號ヲ以テ改正) 限同 第二類 ノ 免許ヲ得ントス
ルモノハ種目員數ヲ記載シ其時々第二項ノ免許ヲ
得ントスルモノハ前期ハ十二月後期ハ六月限リ其
種目間敷場所等ヲ記載シ漁具裝置ノ圖面添付戸長
ノ奥印及組合委員ノ連署ヲ要シ所管郡役所へ願出
鑑札ヲ受クヘシ其組合委員ノ連署ナキ者ハ免許セ
ス

但一時遊戯ノ爲メ一竿釣ヲナスハ此限リニ非ス

第五條 釣網釣等他人ノ稼場ト入交リタルモノハ双
方協議ノ上願出ツヘシ

第六條 免許鑑札ハ都テ他人ニ貸與シ又ハ賣買讓與
スルヲ許サス

第七條 免許鑑札ヲ紛失シ又ハ代換リ改名轉居等ノ
節ハ其旨所管郡役所へ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

但満期若クハ廢業ノ節ハ速ニ返納スヘシ

第八條

第一類ノ漁業ハ都テ明治十二年以後許可セ
ル場所ニシテ且左ノ各項ニ適合セルモノハ免許ス
ヘシ(廿一年縣令第百四
十五號ヲ以テ改正)

但明治十四年甲第二十號布達ニヨリ特許セシ
モノハ本條ノ限リニ非ス

網罟

一 豎間數ハ明治十二年以後許可セシ以内ニシテ横間
數ハ豎間數ノ二分一ヲ超過スヘカラス尤モ從來二
分一ニ及ハサル横間數ハ更ニ延長スルヲ得ス

但雜魚罟モ亦本項ノ制限ニ據ルハ勿論ナリト雖
モ豎間數百間以上ノモノハ免許セズ且構造ハ方
言「カンス」ウチマダケ」ト唱フルモノニ限ル

一 罟壺ニ用ユル罟ノ目ハ每段水涯ヨリ起算シタル間
數ニ應シ左ノ寸法ヨリ細少ナラシムヘカラス

罟罟五十間未滿

同五十間以上百間未滿

同百間以上二百間未滿

五分
六分
八分

同二百間以上三百間未滿

壹寸
壹寸五分

網罟間數ニ拘
ハラス

雜魚罟間數ニ拘
ハラス

方壹寸
貳分五厘

籠

一 勢田川ヲ除クノ外隔年ニ免許シ甲年免許セシ場
所ハ乙年免許セズ

張網

一 網目ハ方五分ヨリ細少ナラシムヘカラス

漬柴 石漬

一 明治十二年以後許可セシ場所ニ限ル

第九條 民有水面ニ於テ第一類ノ漁業ヲナサントス
ル者ハ都テ前條ノ制限ニ隨ヒ免許スヘシト雖其明
治十七年甲第九十七號布達ニヨリ既ニ免許ヲ受ケ
又ハ箇所數坪數等ヲ届出テタル者ノ外ハ一切免許
セズ

第十條 張網罟壺(二十一年縣令第七
十三號ヲ以テ改正)ニ用ユル罟網ハ使用以

前ニ所管郡役所へ願出検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサルモノハ使用スヘカラズ

但破損シ脩繕スルトキモ本條ニ據ルヘシ

第十一條 前條検査ヲ受ケシ簀網ヲ私ニ改造シ又ハ釣籠ノ構造ヲ漫リニ變換シ若クハ間敷坪數等ヲ増延スヘカラズ

第十二條 内湖入江及外湖ノ地元町村ハ左ノ特權ヲ有セシム然レモ湖川ニ拘ハラズ從來稼來リ等ノ慣例アルモノハ其慣例ニ依リ免許スルコトアルヘシ

第一 内湖入江等ハ其沿付町村ニ於テ免許ヲ受ケタル營業人之ヲ專ラニスルヲ得ヘシ

第二 外湖水涯ヨリ十間以内ハ其地元人民ニ於テ他ノ衆ニ先テ免許ヲ受クルヲ得ヘシ

第十三條 第一類ノ營業場所ハ別紙離形ニ倣ヒ免許年月日種目間敷坪數及稼人ノ住所姓名等ヲ詳記シタル目標ヲ建設スヘシ
但釣籠釣堅間敷ノ両端ニ建設スヘシ

第十四條 第二條ニ掲クル種目外ノ漁魚ヲナサントスルモノハ其漁具ノ形狀寸法用法收益見込等ヲ詳記シ所管郡役所ヲ經テ願出ツヘシ
但水族蕃殖ニ妨害アリト認ムルキハ免許セサルヘシ

第十五條 第一類漁魚上ニ必要ナル附屬漁具ハ第四條ニヨリ該營業出願ノ際其種目員數等ヲ詳記スヘシ若シ不相當ト見認ムルキハ使用ヲ差止ムヘシ

第十六條 釣壺内ニ於テ「ダツヘ」「モントリ」ヲ用ヒ漁魚スルヲ許サズ

第十七條 石漬鹹掛等ノ爲メ水中ニ移投セシ砂礫ハ漁期終ルノ後直ニ陸地へ運揚シヘシ

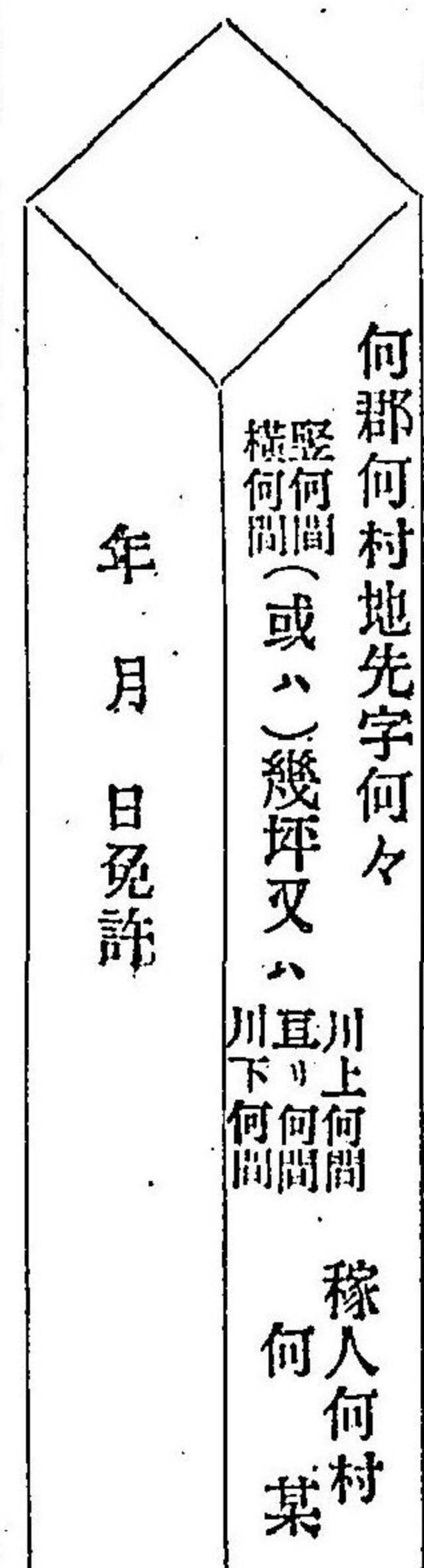
第十八條 都テ毒流ト稱シ石炭山椒皮其他魚毒ヲ用ヒ漁魚スルヲ禁ス

第十九條 採藻泥ハ毎年六七兩月間其業ヲ禁ス

第二十條 漁魚採藻泥ノ爲メ通船ノ航路ヲ妨害スルヲ禁ス尤モ釣籠等免許場所ノ航路ニ係ルモノハ相

當ノ船通シテ設クヘシ
 第廿一條 第一類漁業免許場所ハ臨時吏員ヲ派シ檢査セシムヘシ
 第廿二條 洪水霖雨又ハ其他ノ景狀ニ依リ水理ニ妨害アリト認ムルモハ既ニ免許セシモノト雖モ臨時漁魚ヲ停止シ漁具ノ取拂ヲ命スルヲアルヘシ
 第廿三條 漁業免許ハ其年實地ノ景況ニ依リ漁具魚種漁期漁場等ヲ特ニ制限シ又ハ禁止スルヲアルヘシ
 第廿四條 鯉鮠鱒ノ四種ニシテ未ダ六寸(曲尺)ニ滿タサルモノ及五寸(曲尺)未滿ノ鯛ヲ捕獲スルヲ禁ス
 第廿五條 禁漁場ハ勿論他ノ稼場ヘ立入り漁魚採獲ニテナスヲ禁ス
 但釣網釣ハ水際元杭ヨリ横巾間數ノ兩端ヲ見通シタル區域内ヲ稼場トスヘシ尤モ壺ヲ數段ニ設クルモノハ順次毎段横巾ノ兩端ヲ見通スヘキモノトス
 第廿六條 無免許ニシテ漁魚採獲ヲナシ又ハ免許場

所外ニ於テ私ニ第一類ノ漁魚ヲナスヲ禁ス
 第廿七條 此規則第十三條第二十條及ヒ左ノ各款ニ觸レ説諭ノ上尙應セサルモノ又ハ第六條第十條第十一條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十五條第二十六條ニ違背スルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處シ尙其事情ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ壹ケ年以内其業ヲ停止スルコトアルヘシ
 一 免許期限ヲ過キ漁具ヲ撤セス若シハ漁具取拂ヲ拒ミ又ハ遷延シタルモノ
 一 第二十二條第二十三條ニヨリ臨時漁魚ヲ停止シ又ハ特ニ制限シタル條件ニ違背シタルモノ
 目標離形



裏面ノ二方モ如斯記スヘシ

鯉鮠外三種ノ魚類寸法ニ據リ賣買ノ禁令

○縣令第十七號 明治二十一年一月廿日

來ル二月一日ヨリ水産保護ノ爲メ當分ノ内六寸(曲尺)

未滿ノ鯉鮠鮒及五寸(曲尺)未滿ノ鯛ヲ賣買スルヲ停

止ス違犯ノ者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ

貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

但繁殖用ニ供スル鯉ヲ賣買セントスル者ハ其員數

及放流場所ヲ記載シタル書面ニ賣買者雙方連署ノ

上縣廳へ願出許可ヲ受クヘシ

民林取締規則

○甲第百三號 明治十九年七月六日

民林取締規則別紙ノ通相定ム

但從前布達達指令等本則ニ抵觸ノ虞ハ總テ消滅ノ

義ト心得ヘシ

右布達ス

民林取締規則

第一章 總則

第一條 民林トハ民有ノ山林原野ヲ總稱ス

但國土保安林區域外ノ原野ニシテ田畑宅地ノ間

ニ點在セルモノハ本條ノ限ニ在ラス

第二條 民林ヲ分テ左ノ三種トス

第一 國土保安林

第二 共有山林

第三 私有山林

第三條 國土保安林トハ共有ト私有トニ拘ハラス水

源涵養土砂扞止額雪止等ニ係ル山林ヲ總稱ス

第四條 共有山林トハ二人以上又ハ一町村以上ノ共

有ニ係ル山林ヲ總稱ス

第五條 私有山林トハ一人一已所有ノ山林ヲ指稱ス

第二章 國土保安林

第六條 國土保安林ノ區域ハ別段ノ布達ヲ以テ之ヲ

定ム

第七條 國土保安林ニ於テハ木竹ノ研伐柴草ノ芻取

落葉ノ搔取及土石堀取地形變換其他開墾等ノ諸作業ヲ停止ス

但左ノ場合ニ於テハ時期ト區域トヲ定メ時々作業ヲ許可スルコトアルヘシ

第一 嚴重ナル規約ヲ設ケ縣廳ノ認可ヲ受ケタルモノニシテ保護充分完備セシメタル時

第二 作業ノ種類及實地ノ形狀ニ依リ妨害ナキト認めタル時

第八條 前條但書ノ場合ニ於テ作業ノ特許ヲ得ノド欲スル者ハ郡町村名字反別及其作業ノ種類目的ヲ記載シタル書面ニ四至境界作業ノ場所等ヲ詳記シタル繪圖面ヲ添六ヶ月以前ニ縣廳ヘ願出ヘシ但一時作業ヲ許可セシモノト雖モ時宜ニ依リ其免許ヲ取消又ハ其跡地ヲ修補セシムルコトアルヘシ

第三章 共有山林

第九條 共有山林ハ其共有者ニ於テ便宜組合ヲ設ケ

保護ニ要用ナル取締規約ヲ議定シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 前條組合ニ於テハ造林ノ目的ヲ定メ専ラ樹苗ノ植栽及自生稚樹ノ養生ヲ務メ且ツ其木種ニヨリ各伐採年度ヲ定メ規約書中ニ明記スヘシ

但木種ニヨリ伐採年度不相當ト認めルルハ之ヲ改定セシムルコトアルヘシ

第十一條 共有山林ハ濫リニ他ニ賣却シ又ハ分割私

有ス可カラス

但町村ノ興廢ニ關スル等非常ノ事故アリ他ニ賣却セント欲スル時ハ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ以テ縣廳ヘ願出指揮ヲ受クヘシ

第十二條 共有山林ハ凡テ輪伐法トス可シ若シ反別少數ニシテ輪伐法ノ行ハレサル箇所ハ第十三條ノ手續ニ依リ縣廳ノ指揮ヲ受クヘシ

第十三條 立木ヲ伐採セント欲スル時ハ其反別及木種員數尺廻リ并ニ跡地植栽ノ苗種員數等ヲ詳記シ

タル書面ニ畧圖ヲ添ヘ縣廳ヘ願出指揮ヲ受クヘシ
第十四條 共有ノ草苜場ハ毎年需用スル所ノ草量ニ
應シ豫メ其反別ヲ算定シ妄リニ其區域ヲ變更スヘ
カラス

第四章 私有山林

第十五條 私有山林ハ其所有者ニ於テ一町村又ハ數
町村便宜組合ヲ設ケ保護ニ要用ナル取締規約ヲ議
定シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 前條ノ組合ニ於テハ造林ノ目的及樹木ノ
種類ニヨリ各伐採年度ヲ定メ而シテ尙輪伐法ヲ行
フヘキ林地ト反別少數等ニシテ輪伐ヲ施サ、ルモ
他ニ影響ノ及ホカ、ル林地トテ區別シ規約書中ニ
明記スヘシ

第十七條 林地所有者ノ變更又ハ立木ヲ伐採セント
欲スル時ハ其反別及木種員數並ニ跡地植栽ノ苗種
員數又ハ自生ノ稚樹養生等ヲ保護掛ヘ申出其承認
ヲ受クヘシ

第五章 境界

第十八條 山林ノ境界ハ各所有者ニ於テ適宜ノ方法
ヲ以テ判明ナラシムヘシ

第十九條 前條ノ場合ニ於テ若シ其境界官林ニ接續
シタルトハ縣廳ヘ申出指揮ヲ受クヘシ

第二十條 官林ニ接シタル民林ニ於テ土石堀取立木
伐採柴草苜取開墾等ノ作業ヲナサントスル時ハ三
十日以前ニ縣廳ヘ届出ヘシ

第六章 火入

第二十一條 山林ハ一切火入ヲナスヘカラス

但組合規約上縣廳ノ認可ヲ得タル草苜場又ハ植
樹地等整理ノ爲メ火入ヲ必要トシ特ニ縣廳ノ允
可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第二十二條 草苜場ニ於テ火入ヲナサントスル時ハ
必ス其周圍ニ幅四間以上ノ火除道ヲ作り延焼ヲ豫
防スヘシ

第二十三條 草苜場ノ火入ハ天氣隱和ノ時日ヲ撰ヒ

保護掛ヲ經テ地元戸長ノ承認ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ
但其時日ハ所管警察署又ハ分署交番所等へ届出
ルハ勿論タルヘシ

第二十四條 官林近傍ノ草薙場ニ於テ火入ヲナス時
ハ其官林巡邏及官林番へ通報スヘシ

第七章 役員

第二十五條 山林組合ニハ其組合毎ニ必ス一名以上
ノ保護掛ヲ撰定シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
但取締上ノ都合ニ依リ保護掛ノ外便宜見廻人ヲ
設クルモ妨ケナシ

第二十六條 前條ニ依リ既ニ撰定シ又ハ認可シタル
保護掛ト雖モ若シ縣廳ニ於テ不適任ト認ムル場合
ニ於テハ特ニ改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第二十七條 保護掛ハ受持山林ノ保護取締ニ關スル
事務ヲ管理シ專ラ山林ノ利益増進ヲ圖ルヘシ

第二十八條 保護掛ハ其受持山林ノ反別及栽植斫伐
ノ木種員數其他尺廻リ等ヲ詳記シタル臺帳ヲ備置

第二十九條 共有山林保護掛ト私有山林保護掛トハ
之ヲ兼務スルモ妨ケナシ

第八章 雜則

第三十條 山林ニ於テ火災又ハ害蟲ノ發生ヲ認メタ
ル者ハ直ニ其消防驅除ニ從事スハ勿論所管戸長役
場及保護掛へ急報ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 此規則第二章第七條ニ違背シ官許ヲ得
ス諸作業ヲ爲シ第六章第二十一條及第二十二條ノ
手續ヲ爲サス火入ヲ爲シタル者ハ違警罪ノ處分ニ
付セラルヘシ

(參考)

○甲第廿八號 明治十七年五月六日

國土保安ノ爲メ左ノ山林地ニ於テ自今私ニ竹木ヲ斫
伐シ礦物土石ヲ掘採シ柴草ヲ芻取落葉ヲ搔取及開墾
等ノ事業ヲ停止候條自今該事業ヲ作サントスル時ハ
着手ノ日ヨリ六ヶ月前其事由ヲ詳記シタル書面ヲ以

テ本縣へ願出許可ヲ受クヘシ此旨布達候事

蒲生郡熊野村外三ヶ村字綿向山

一反別六百六十七町七反三畝廿步

同郡平子村外一ヶ村奥ノ草山

一反別百五十町二反步

同郡仁本木村外五ヶ村字小柴山

一反別六百廿七町九反六畝四步

右ハ日野川流域ニ係ル水源涵養ノ箇所

同郡西明寺村字龍王ヶ嶽

一反別百四十三町九反步

同郡原村字三峯山

一反別二百二十三町二反一畝步

右ハ佐久良川流域ニ係ル水源涵養ノ箇所

神崎郡南須田村字深谷

一反別十七町九反貳畝步

古ハ緒山ニシテ土砂扞止ニ係ル箇所
愛知郡松尾寺秦川山

一反別三百五十町步

同郡斧磨村字向山

一反別七十五町六反步

右ハ宇曾川流域ニ係ル水源涵養土砂扞止ノ箇所

同郡斧磨村字黒岩

一反別八町七反七畝拾七步

右ハ犬上川流域ニ係ル土砂扞止ノ箇所

同郡九居瀬村字扇野

一反別三拾六町七反三畝步

右ハ愛知川流域ニ係ル土砂扞止ノ箇所

犬上郡富ノ尾村字小屋寺外拾六箇所

一反別九拾貳町八反五步

同郡壺村字畑谷外三ヶ所

一反別三拾町步

同郡小原村字小野外一ヶ所 同郡小原村字和南

一反別六反步 一反別貳町五反步
犬上郡藤瀬村字吹ノ畔外四ヶ所

- 一反別六拾三町八反步
- 同郡川合村字岩下
- 一反別拾町步
- 同郡一ノ瀬村字南谷
- 一反別六町步
- 同郡大杉村字石谷
- 一反別八拾町步
- 同郡霜ヶ原村字峠久保
- 一反別七町步
- 同郡佐目村字イモシ谷
- 一反別五拾六町步
- 右ハ犬上川流域ニ係ル水源涵養土砂扞止ノ箇所
- 同郡敏満寺村字青竜山外貳ヶ所
- 一反別五拾七町三反九畝貳拾三步
- 同郡水谷村字知目谷
- 一反別百貳拾八町三反五畝步
- 右ハ芹川流域ニ係ル水源涵養土砂扞止ノ箇所

○甲第廿六號 明治十七年十一月十二日
 國土保安ノ爲メ淀川野洲川家楨川日野川木曾川流域
 ニ係ル左ニ記列ノ町村山林地ニ於テ私ニ竹木ヲ斫伐
 シ礦物土石ヲ掘採シ柴草ヲ蒔採落葉ヲ搔取及ヒ開墾
 等ノ事業ヲ停止候條自今該事業ヲ作サントスル時ハ
 着手ノ日ヨリ六箇月前共事由ヲ詳記シタル書面ヲ以
 テ本縣へ願出許可ヲ受クヘシ此旨布達候事
 但明治十四年十二月十二日本縣甲第百廿四號十六年十二月
 本縣甲第百五十號百五十一號十七年三月本縣甲第廿
 九號布達ハ自今廢止候事
 淀川流域關係町村

- 滋賀郡
- 大谷町
- 追分町
- 錦村
- 中ノ庄村
- 北大路村
- 一里町
- 藤尾村
- 膳所村
- 別保村
- 鳥居川村

南南矢南北木草安坊岡野部馬下御東大
 大笠橋山山川津養袋路田塙砥園坂鳥
 村村村村村村村村村村村村村村村居

大栗橋御山山下野矢川目大追岡山上井觀
 江林岡倉田笠倉邊川路分本寺砥ノ音
 村田村村村村村村村村村村村山上寺村

栗

桐芝特堂森枝里黑關東龍會太外南平國
 生原 津津 門東郡畑鄉津分
 村村村村村村村村村村村 村村村村

荒中平新羽淀石稻太富大小 內千寺
 原野野免栗 居津子川石田 畑町邊
 村村村村村村村村村村村 村村村

神領村	橋本村	甲賀郡	宮尻村	上朝宮村	柞原村	西川村	小川出村	多羅尾村	長野村	牧野村	畑村	宮原村	市原村	鹽野村	日野川流域關係	甲賀郡
月輪村	新濱村		下朝宮村	杉山村	中野村	江田村	小川村	神山村	勅使村	田代村	貴代村	牛飼村	柳中村			

岩根村(廿年縣令第百六十) 三號二改正

蒲生郡	藥師村(同上)	日野川流域關係	甲賀郡	下田村(同上)	野洲川流域關係	野洲郡	南櫻村(同上)	野洲川流域關係	野洲郡	北櫻村(同上)	日野川流域關係各村	蒲生郡	鏡山村	七里村	山中村
-----	---------	---------	-----	---------	---------	-----	---------	---------	-----	---------	-----------	-----	-----	-----	-----

木曾川流域關係各村

坂田郡

藤川村

上平寺村

縣令第八拾三號 明治二十年三月三日

明治十九年七月本縣甲第百三號布達民林取締規則第二章ニ據リ國土保

安ノ爲メ坂田東淺井兩郡左ノ村々山林地ニ於テ自今私ニ木竹ノ斫伐柴

草ノ蒞取落葉ノ搔取及ヒ土石堀取地形變換其他開墾等ノ諸作業ヲ停止

ス

國土保安林

郡名村名	字	地券番號	反	別	事由				
高野谷	第千七百拾六番	七町壹畝廿壹步	拾壹町六反九畝壹步	別	事由				
						大谷	第千七百拾五番	五拾六町四反	三畝拾四步
						初鹿野	第千五百三拾貳番	拾三町五反拾四步	

伊吹

郡名村名	字	地券番號	反	別	事由		
甲賀山	第千七百拾三番	第千七百拾四番	拾九町五反	別	事由		
						唐谷	第千五百九拾七番ヨリ 第千五百九拾六番マテ
蟬ノ平	第千五百九拾七番ヨリ 第千五百九拾六番マテ	第千五百九拾七番ヨリ 第千五百九拾六番マテ	七町四反九畝九步	別	事由		
						第千五百九拾九番マテ	
						第千五百九拾九番ヨリ	
						第千五百九拾八番マテ	
						第千五百九拾八番ヨリ	
向山	第千五百九拾七番	五拾六町	六町步	別	事由		
第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番		
第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番		
第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番		
第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番	第千五百九拾七番		

小泉	
中	澤ノ平
蟬第貳百五拾貳番五町七反廿五步	第千五百三拾七番
第四百八拾八番ヨリ	第千五百四拾番ヨリ
第四百九拾八番マテ	第千五百四拾八番マテ
第三百	第千五百五拾壹番
第三百拾九番ヨリ	第千五百五拾四番
第三百貳拾貳番マテ	第千五百五拾六番
第三百貳拾貳番ノ内第壹	第千五百五拾八番
第三百三拾番	第千五百八拾八番
第四百五拾四番ヨリ	
第四百五拾七番マテ	
第四百八拾番ノ内第壹	
第四百八拾壹番	
姉川流域土砂扞止	

大久保	
宮	野田山
谷第千六百三拾壹番貳百四町步	第千五百三拾七番
界	第千五百四拾番ヨリ
谷第三百九拾番	第千五百四拾八番マテ
四拾町四反	第千五百五拾壹番
九畝拾四步	第千五百五拾四番
貳百貳拾三町	第千五百五拾六番
貳反六畝步	第千五百五拾八番
三拾町四反壹畝步	
百八十八	

相撲庭ノ七尾山第一番ノ内第一番ヨリ第五拾三番迄										坂田									
梓河内					柏原					大平寺					彌高				
坂谷	善坪	菊出	宮谷	別當	大平	稗谷	西谷	東谷	大谷	長岡大場山	赤岩	大黒	大界	大道	赤谷	上野伊吹山			
第千二百四十八番ヨリ	第千二百四十四番マテ	第千二百三十三番マテ	第千二百三十一番マテ	第千二百七十二番マテ	第千五百六十六番	第千三百五拾七番	第千五百八十八番	第千五百六十九番	第千四百九拾番	第千八百廿八番	第百四拾七番	第百拾五番	第百七拾八番	第百四拾四番ノ内第一ヨリ第八マテ	第百四拾四番ノ内第九番	第千八百五拾五番			
三町壹畝廿六步	九町六反六畝步	四町七畝八步	拾四町貳反五畝廿四步	五町八反五畝六步	七拾六町八反九畝廿步	九町四反步	四拾六町七反四畝廿八步	三拾四町壹反貳畝拾四步	五拾四町壹反六畝九步	貳拾九町貳反貳畝廿九步	六拾五町七反壹畝六步	三拾町貳反七畝廿貳步	五町六反五畝廿四步	四町九反九畝廿壹步	貳町九步	三百廿貳町壹反九畝廿六步			
天ノ川水源										天ノ川流域土砂扞止					天ノ川流域土砂扞止				

百八十九

番場									
馬屋谷	黒谷	赤ヶ谷	窪ヶ谷	獅ヶ谷	小摺針	小正防	宮谷	シトラ	
第千二百四十九番ヨリ 第千二百六十一番マテ	第千三百二十四番ヨリ 第千三百二十六番マテ	第千五百七十八番	第千五百七十七番	第千七百貳拾番	第千七百廿五番	第千七百五拾貳番	第貳千八拾六番	第貳千八拾八番	第五百九拾壹番
拾七町貳反	四拾六町	町	町三反	町貳反	九町貳反三畝貳步	壹町壹反廿四步	五町壹反	五反	町
五畝廿七步	貳反拾七步						壹畝拾貳步		步
天ノ川流域水源及土砂扞止									

中山大									
今莊	徳山坪	鳥居本	本郷井ノ上	北	敷一	敷一	敷一	敷一	敷一
岩谷	木ノ谷	長島	長島	北	敷一	敷一	敷一	敷一	敷一
第千二百九十九番ヨリ 第千二百九十九番マテ	第千二百廿八番	第千二百廿九番ヨリ 第千二百三十一番マテ	第千二百廿九番ヨリ 第千二百三十一番マテ	第千七百拾壹番	第千七百拾壹番	第千七百拾壹番	第千七百拾壹番	第千七百拾壹番	第千七百拾壹番
拾町五反貳畝步	八町四反五畝步	壹町九反廿七步	壹町九反廿七步	拾六町九反	拾六町九反	拾六町九反	拾六町九反	拾六町九反	拾六町九反
				五畝廿壹步					
天ノ川流域土砂扞止									

百九十

東淺井

大堀	井立平	岡谷	上山田	下山田	鍛冶屋
第千三百三十七番ヨリ	第千三百三十八番ヨリ	第千四百六拾壹番	第千四百七拾壹番	第千七百壹番	第千三百五拾三番
拾六町八反五畝步	五町貳反貳畝步	四拾町步	九拾九町步	六町步	三拾町步
				姉川支流高時川流域土砂扞止	姉川流域土砂扞止

○縣令第百十七號 明治二十年四月八日

(達文前ニ全シ) 甲賀郡

郡名	村名	字	地券番號	反	別	事由
三雲	西山	第千三百三十八番		六拾壹町三反八畝拾八步		

甲賀

吉永東	夏見龍王山	針
代第千二百五十一番	第千二百九十九番	池ヶ谷
六拾貳町八反步	五拾七町三反七畝步	第千四百七十九番
		貳町七反步
		大谷
		第千四百七十八番
		九町貳反步
		岩谷
		第千四百六十番
		四町五反步
		奥ヶ平
		第千三百五十四番
		九拾壹町五反步

野洲川流域土砂扞止

○縣令第百三十八號 明治二十年六月六日

(達文前ニ全シ) 伊香郡

郡名	村名	字	地券番號	反	別	事由
雨森	向山	第千七百一十七番		拾四町九反五畝貳拾八步		
上谷	第千七百一十七番			拾壹番		